

和仏法律学校講義録

秋山, 雅之介 / 山崎, 覺次郎 / 中山, 成太郎 / 鈴木, 英太郎 / 塚田, 達二郎

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

1-8

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

39

(発行年 / Year)

1903-02-21



(明治三十五年十一月四日第三種郵便認可) 毎月廿四日、廿五日、廿六日、廿七日、廿八日、廿九日、三十日發行

明治三十六年二月二十一日發行

三十六年度 第一學年ノ八



和佛法律學校講義錄

第六拾壹號

和佛法律學校

第一學年 第八號目次

民法總則	自第一章(自二七四)至第三章(自二八七)	法學士 鈴木英太郎
民法總則	自第四章(自八七四)至第六章(自八七五)	法學士 塚田達二郎
民法物權	自第一章(自六五)至第六章(自七六)	法學士 中山成太郎
國際公法(戰時)	(自八二)至(自九三)	法學士 秋山雅之介
經濟學	(自八九)至(自二六)	法學士 山崎覺次郎

雜報

○保證契約ノ成立○後見人ノ辭任ト就任○請負ノ目的物ノ滅失ニ因ル危險負擔○一定ノ申立

090
1903
1-1-8

シ營業ヲ爲スニ堪ヘザルコトナル場合ニ於テハ其營業ノ許可ヲ取消スルカ又ハ制限スルコト必要ナリ若シ然ラザレバ未成年者保護ノ趣旨ニ反シテ其不利益ヲ見ルノ結果ト爲ルヲ以テ我民法ハ明ニ規定ヲ設ケテ未成年者ヲ未タ營業ニ堪ヘザル事跡アルトキハ其法定代理人ハ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ制限スルコトヲ得ト定メタリ(第六條第二項) 茲ニハ前記ノ如ク未成年者ハ其法定代理人カ一種又ハ數種ノ營業ヲ許可シ又其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニ如何ナル方式ニ依リ爲サザルニテハ其法定代理人ノ親族編ニ於テ規定スル即チ法定代理人ノ中ニテモ父又ハ母ハ營業ノ許可其取消又ハ制限ヲ爲スニハ獨斷ニテ之ヲ爲スコトヲ得レトモ後見人ハ親族會ノ同意ヲ得ルコト必要ナリ(第八八三條第九二一條)

以上述ヘタル所ニ未成年者ノ能力ニ關スル大體カリ向ホ之ヲ約言スレハ未成年者ナルモノハ通則ニテハ單ニ權利又得義務ヲ免ルヘキ法律行為ハ獨斷ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモ其他ノ法律行為ハ法定代理人ノ同意ヲ得ルニテ之ヲ爲スコトヲ得然レドモ未成年者ハ例外トシテ法定代理人カ目的ヲ定メテ處

民法總則 承繼ノ注釋

分ヲ許シタル財産ハ其目的ノ範圍内ニ於テ隨意ニ之ヲ處分スルコトヲ得目的ヲ定メスシテ處分ヲ許シタル財産ハ如何ナル目的ヲ開ハズ全テ自由ニ之ヲ處分スルコトヲ得ヘシ又未成年者カ一種又ハ數種ノ許可ヲ得タルトキハ其營業ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有スト云フニ在リ

第三項 禁治產者

(一) 禁治產ノ制度 吾人人類ハ皆悉ク常ニ其精神健全ナリト謂フコト能ハス或ハ所謂癡癩白痴ナル者アリ而シテ此等ノ者ハ或ハ永久ニ心神喪失ノ情況ニ在ル者アリ或ハ時時本心ニ復スル者アリ故ニ其喪失心中ニ爲シタル所ノ法律行為ハ無効ナリト謂フコト勿論ナレトモ本心ニ復シタル時ニ爲シタル法律行為ハ有效ナリト謂ハルヘカラス然レトモ法律行為ノ當時ニ於テ果シテ其行為者ニ意思アリシヤ否ヤヲ研究スルコトハ難ク時ヲ經ルニ隨ヒ其困難ハ一層大ナリ隨テ事實喪失心中ニ爲シタル行為モ立證不十分ノ爲メニ有效ナルモノト認メラレ或テ之ト反對

ニ本心ニ復シタル時ニ爲シタル法律行為モ無効ト看做ザルコトアルゾトナラス其法律行為ノ當時ニ於テ意思能力ヲ有無ニ就テ常ニ爭ヲ生スルコトヲ免レス若シ之ヲ自然ノ狀態ニ放任スレバ前述ノ癡癩白痴ノ如キ精神ノ完全ナラサル者ハ如何ナル損害ヲ被ルモ計ラレス而シテ其損害ナルモノハ管ニ此等精神ノ完全ナラサル者自身及ヒ其家族ノ損害タルノミナラス間接ニハ又國家ノ損害タリト謂フコトヲ得故ニ國家ハ相當ノ制度ヲ設ケ癡癩白痴ノ如キ精神ノ完全ナラサル者ヲ保護スルト云フコト必要ナリ是レ禁治產ノ制度ノ起ル所以ナリ

今之ヲ諸國ノ法律歴史ニ徵スルニ癡癩白痴ノ如キ精神病者ハ古代ヨリ多少法律上特別ナル保護ヲ受ケタリ例ヘハ羅馬法ニ於テハ未ダ禁治產ノ制度ナキモ癡癩白痴ニハ特ニ管理人(Curator)ナルモノヲ附シ而シテ其身體財産ノ利益ヲ保護セシメタリ又孤遺ノ古代法ニ於テモ猶ホ羅馬法ノ如ク未ダ禁治產ノ制度ノ設ナキモ癡癩白痴等ニ對シテハ特ニ後見人(Torward)ヲ附シテ其利益ヲ保護セシメタリ其後諸國ノ立法上此等ノ精神喪失者ニ對スル保護ナルモノハ益々厚ク

カ如クナルモ少シク細密ニ研究スレハ未成年者ト禁治産者トハ第一ニ其能力ノ異ナル所アリ即チ未成年者ハ通則トシテ單ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルヘキ行爲ハ獨斷ニテ之ヲ爲スコトヲ得又例外トシテハ未成年者ハ法定代理人カ處分ヲ許シタル財産ヲ隨意ニ之ヲ處分スルコトヲ得尙ホ一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタルトキハ其營業ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有スルコトハ前述ノ如シ然ルニ禁治産者ハ此ノ如キ能力ヲ有セス加之未成年中ニ禁治産ノ宣告ヲ爲シ置カサレハ其者カ成年ニ達シテ禁治産ノ宣告ヲ受クルモノトハ間ハ全ク普通ノ者ト同様ニテ特別保護ヲ受ケサルノ虞アリ故ニ未成年者ニテモ亦禁治産ノ宣告ヲ爲ス必要アリ其他苟モ心神喪失ノ常況ニ在ルモノハ單禁治産者ニテモ又ハ妻ニテモ皆等シク之ニ對シテ禁治産ヲ宣告スルノ必要アリ其理由ハ煩雜ニ涉ルヲ以テ一茲ニ述ヘス諸君少シク研究スレバ之ヲ知ルコトヲ得ルナリ

(一) 禁治産宣告ノ手續 禁治産宣告ノ手續ハ人事訴訟手續法第四十條乃至第六十四條ニ於テ之ヲ規定ス予ハ其大體ヲ茲ニ説明セントスルモノナリ

禁治産ノ宣告ヲ爲スハ常ニ申立ニ因ルモノトス而シテ禁治産ノ申立ヲ爲スモトヲ得ル者ヨリ其申立アリタルトキハ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ハ決定ヲ以テ禁治産ノ宣告ヲ爲スモノナリ禁治産宣告ノ申立ヲ爲スニハ書面又ハ口頭ヲ以テスルコトヲ得然レトモ其申立ニハ禁治産ノ原因タル事實及ヒ證據方法ヲ表示シ置カサルヘカラス然レトモ裁判所ハ禁治産ノ申立アリタルトキハ直チニ其宣告ヲ爲スヘキモノニ非ス禁治産ノ宣告ヲ爲ス前ニ必ス心神ノ狀況ニ就テ醫士ヲシテ鑑定セシメ之ヲ訊問スルコトヲ要ス尙ホ禁治産ノ宣告ナルモノハ前述シタル如ク國家ノ利益ニモ關係スルモノナルヨリ裁判所ハ職權ヲ以テ心神喪失ノ常況ニ在ルヤ否ヤヲ探知シ及ヒ必要トスル所ノ證據調ヲ爲スコトヲ得又禁治産ノ手續ハ普通ノ訴訟事件ト異ナリ之ヲ公行セス此ノ如ク裁判所ハ證據調ノ結果禁治産ノ申立ヲ理由ナキモノト認ムレハ之ヲ却下ス之ニ反シテ其申立ヲ理由有リトセシトキハ始メテ禁治産宣告ノ決定ヲ爲スモノナリ而シテ其決定ナルモノヲ禁治産者ノ法定代理人又ハ檢事ニ送達シタルノ日ヨリ效力ヲ生スルモノトス

右ノ如ク禁治産ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ之ヲ不當トスルモキハ禁治産宣告ノ申立ヲ爲スル得ル者トシ其宣告ニ對シ一箇月以内ニ不服ヲ申立ルルコトヲ得此訴ハ禁治産ノ宣告ヲ爲シタル區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬スルモノトス而シテ此ノ如ク訴ヲ提起スル所トキハ裁判所ハ更ニ事實ヲ審査シ其訴ヲ理由アリトスレバ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ取消ス之ニ反シ理由ナキモノトスレバ其訴ヲ却下スルモノトナリ當該ニ非テ管轄ノ範圍ニ屬スル前通ノ如ク禁治産ノ宣告ハ之ヲ宣告シタル決定ヲ禁治産者ノ法定代理人又ハ檢事ニ送達シタル日ヨリ其效力ヲ生スルモノナリ而シテ禁治産ノ效力ニ對シテ體二アリ其一ハ禁治産者ヲ無能力者ト爲シ他ノ一ハ禁治産ヲ後見ニ付スル事トシテ是ナリ

(三) 禁治産宣告ノ效力

前通ノ如ク禁治産ノ宣告ハ之ヲ宣告シタル決定ヲ禁治産者ノ法定代理人又ハ檢事ニ送達シタル日ヨリ其效力ヲ生スルモノナリ而シテ禁治産ノ效力ニ對シテ體二アリ其一ハ禁治産者ヲ無能力者ト爲シ他ノ一ハ禁治産ヲ後見ニ付スル事トシテ是ナリ

(イ) 禁治産者ノ能力

禁治産者ハ原則トシテ總テハ法律行為ヲ爲スル事ヲ得ス第九條ニ其申立ルルモノハ禁治産ノ宣告ニ對シテ其申立ルルモノハ禁治産者ノ利益ナルモノトシテ未成年者ハ單ニ權利ヲ得義務ヲ免ルルニキ行為ノ如キ自己ノ利益ナルモノトシテ

無能力者ノ財産管理權ト身上ニ關スル監督及ヒ懲戒權トヲ包含スルモノニシテ後ノ權限ハ後見人自ラ之ヲ行使セザルヘカラサルコトハ法律ノ精神解釋上明白ナリ加之後見人ハ財産管理者ヲ使用スルコトヲ得第九二六條參照ノ規定セルヲ以テ見ルモ財産上ノ管理ニ付テハ復代理人ヲ選任スルコトヲ認メタリト雖モ其以外ノ權限ニ付テハ之ヲ許ササルモノト謂ハサルヘカラス若シ後見人ノ權限ノ全部ヲ復代理人ニ分配スルコトヲ得ヘシトモハ後見人タル資格ヲ制限シタル第九七條ノ如キハ其目的ヲ達スルコトヲ得サルニ至ルヘシ要スルニ後見人ハ無能力者ノ財産管理ニ付テハ復代理人ヲ選任シ得ヘキモノト解セザルヘカラス又失踪者ノ財産管理人ノ如キハ財産管理ニ關スル權限ヲ有スルニ過キサルヲ以テ其權限ノ全部ハ之ヲ復代理人ニ分配シ得ヘキモノト信スル代理人ハ自己ノ資格ト代理人タル資格トニ於テ同一ノ法律行為ヲ爲スコトヲ得又同時ニ當事者雙方ノ代理人ト爲リテ同一ノ法律行為ヲ爲スコトヲ得ス例ヘハ總括權限ヲ有スル代理人カ本人ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニ自己ノ名義ヲ以テ代理人タル己ニ對シテ債權ノ催告ヲ爲スカ如キ又ハ兩會社ノ取締役

事項トス而シテ代理權ハ本人ノ爲メニスルコトヲ示シテ法律行為ヲ爲ス權限ヲ謂フモノナルカ故ニ(第九九條)代理權ヲ附與スルト否トハ委任契約ノ成立ニ關係ナキ事項ナリト謂ハサルヘカラス獨逸帝國商事裁判所判決例ニ於テ「委任事項ヲ代理スルハ委任契約ニ因ルニ非スシテ代理人ニ附與セラレタル權限ニ依ルモノナルコトヲ明示スルハ右ノ議論ニ基クモノナリ又委任契約ハ有效ナルモ代理權附與ニ關スル必要ノ形式ヲ欠缺セルヲ以テ代理權限ヲ有セザル場合商法第一六一條參照若クハ受取證書ノ持參人ハ辨濟受領ヲ委任セラレタルコトナキモ其權限ヲ有スルヲ以テ看ルモ代理權ハ委任ニ因リテ直チニ發生スルモノニ非スシテ代理權ノ附與ニ因リテ生スルモノナルコトヲ知ルコトヲ得ヘシ通常委任契約ヲ爲スニ當リ代理權ヲ附與スルコトアルヲ以テ委任契約ニハ代理權ノ附與ヲ包含スト解スルノミナラス代理權ノ附與ハ委任契約ノ一要素ニシテ代理ハ委任契約ニ因リテ生スルモノナリト斷定スルハ未タ法理ヲ究メザル說ナリ要スルニ委任契約ハ受任者カ委任者ノ爲メニ法律行為ヲ爲スコトヲ承諾スルヲ以テ足レリトスルモノニシテ其法律行為ヲ爲スニ付テ本人ノ

爲メニスルコトヲ示シテ之ヲ爲スヘキヤ否ヤハ委任スヘキ事項ノ性質例ヘハ辨濟受領ノ委任債權讓渡ノ委任ノ如シニ依リテ明確ナルモノト否ラサルモノトノ區別アリト雖モ其ニ受任者ノ承諾ヲ要スヘキ事項ニ非スシテ本人ノ單獨意思ニ因リテ定マルモノトスルニシテ其法律行為ヲ爲スニ付テ本人ノ爲メニ注意スヘキハ右ノ如ク代理權ハ單獨行為ニ因リテ附與スルモノナリト雖モ委任ヲ基礎トシテ之ニ代理權ヲ附與シタル場合ト委任ヲ基礎トセスシテ代理權ヲ附與シタル場合トハ代理ノ法律關係ニ於テ毫モ異ナル所ナシト雖モ本人ト代理人トノ法律關係ニ於テ差異アルモノナリ前者ハ代理人ハ本人ノ爲メニ法律行為ヲ爲ス權限ヲ有スルト同時ニ義務ヲ負フモノナリ後者ハ本人ノ爲メニ法律行為ヲ爲ス權限ヲ有スルノミニシテ毫モ之カ義務ヲ負フコトナシ蓋シ私法上ノ原則トシテ何人モ單獨意思ヲ以テ他人ニ義務ヲ負ハシムルコトヲ得スト雖モ代理權ノ附與ハ他人ニ權限ヲ與フルモノナルヲ以テ他人ノ承諾アルニ非ナレハ之ヲ附與スルコトヲ得サルノ理ナキナリ唯權限附與ノ結果他人ヲシテ其權限ニ依リテ自己ノ爲メニ或義務ヲ負ハシムルニハ之カ承諾ヲ要ス

ト雖モ權限ヲ附與セラレタル相手方ハ本人ニ對シテ其權限内ノ行為ヲ爲ササルヘカラサル義務ヲ負フト否トハ權限ノ附與ニ關係ナキ事項ナリ即チ權限ハ本人ノ片面的意思表示ニ依リテ完全ニ附與セラルルモノニシテ相手方ハ其權限内ノ事項ニ付テ本人ヲ代表シテ法律行為ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナリ是レ法律ノ特別規定ヲ埃タスシテ意思表示ノ一般原則ヨリ當然ニ生スル論決ナリ唯代理權ヲ附與セラルル人ニ非サル第三者ニ對シテ他人ニ代理權ヲ與ヘタル旨ヲ表示シタルニ依リテ代理關係ヲ生スヘキヤ否ヤハ獨逸民法ノ如ク法律ノ明文ヲ埃チテ始メテ決定スヘキ事項ナリトス獨逸民法第一六七條第一七一條參照代理權附與ニ關スル我民法ノ解釋ニ付テハ從來學說區區ニシテ或ハ民法第百九條ヲ以テ本人ノ單獨行為ニ因リテ代理權ヲ生スヘキモノナルコトヲ規定シタルモノナリトシ同條ヲ基礎トシテ單獨行為ニ因リテ代理權ヲ附與スルヲ得ルモノナリト主張スル者アリ或ハ代理權ハ委任ニ因ルニ非サレハ發生セザルモノトシ我民法ハ委任ニ因ル代理人ニ關スル事項ノミヲ規定シ單獨行為ニ因ル代理人ノ規定ヲ缺タヌ以テ我民法ノ主義ハ單獨行為ニ因ル代理權ノ附與

ヲ認メサルモノナルコトヲ主張スル者アリト雖モ此兩說ハ共ニ議論ノ正論ヲ得サルモノト信ス何トナレハ我民法第百九條ハ第三者ニ對シテ他人ニ代理權ヲ與ヘタル旨ヲ表示シタルニ因リテ代理權ヲ附與シ得ヘキコトヲ定メタルニ非スシテ第三者ヲ保護スル爲メニ設ケタル特別規定ニ外ナラザレハオリ即チ同條ニ依リテ他人ニ代理權ヲ與ヘタル旨ヲ表示シタル者ハ其代理權ノ範圍内ニ於ケル行為ニ付テ本人ト同一ノ責ニ任スルニ過キス隨テ其法律關係ハ代理ノ法律關係ニ非スシテ法律ノ特別規定ニ因リテ發生スル特別ノ法律關係ナリ故ニ本人ハ其行為ニ依リテ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フモノニ非ス之ニ依リテ權利ヲ得義務ヲ負フハ相手方ノ意思ニ依ルモノニシテ相手方ニ於テ本人ニ對シテ行為ノ效力ヲ主張スル場合ニ於テ始メテ本人ハ其行為ニ依リテ生スル法律上ノ效果ヲ受クヘキモノナリ又委任ニ因ル代理人トハ委任ヲ基礎トシ即チ本人ニ對シテ代理スヘキ義務ヲ有スル代理人ヲ謂フモノニシテ此代理人ニ關シテ特別ノ規定アルカ爲メニ代理權ノ附與ハ單獨行為ヲ以テ之ヲ附與スルコトヲ得サルノ論決ヲ生セザレハナリ

右ノ叙述ニ依リテ代理權ノ發生ニ關スル法理ヲ明カニスルヲ得タリト信ス若シ代理人カ其權限ヲ超ヘテ本人ノ爲メニ法律行為ヲ爲シタルトキハ其行為ノ效力如何此解決ニ關シテハ第三者ニ於テ其權限アリト信スヘキ正當ノ事由アリタルトキト然ラサル場合トヲ區別セサルヘカラス前ノ場合ニ在リテハ本人ハ其行為ノ責ニ任スヘキモノナリト雖モ後ノ場合ニ在リテハ本人カ之ヲ追認スルニ非サレハ本人ニ對シテ其效力ヲ生セス蓋シ理論上第三者カ代理權アリト信スヘキ正當ノ事由ヲ有スルト否トニ拘ハラス代理人ノ權限外ノ行為ハ代理行為ニ非サルヲ以テ本人ニ對シテ直接ニ其效力ヲ生スヘキ理由ナシトス然レトモ第三者ニ於テ權限アリト信スヘキ正當事由アルモノナルトキハ即チ第三者ハ善意ニシテ且過失ナキモノナルヲ以テ之ヲ保護シ本人ヲシテ其行為ノ責ヲ負ハシムルハ取引ノ安全ヲ保護スル上ニ於テ必要ナルカ故ニ法律ハ特ニ之カ規定ヲ設ケ本人ヲシテ其責ニ任セシメタル所以ナリ(第一一〇條第一一三條)

思アル占有ハ之ニ反シテ明確ナル現在事實ニシテ且之ヲ主張スルノ意思亦確實ナレハ法律ハ必ス之ヲ保護スルノ要アリト謂ハサルヘカラス唯意思アル占有ノ中ニ就テ代理占有ハ其本人ノ占有ヲ保護スルトキハ亦代理占有ヲ保護スルノ要ナキヲ以テ代理占有ニ於テハ特ニ法律カ保護ヲ與ヘサルヲ原則トス而シテ意思アル占有ノ中ヨリ代理占有ヲ省クトキハ其餘ハ即チ總テ自己占有ノ範圍ニ屬シ皆自己ノ利益ノ爲メニ支配スルノ意思ヲ有シ自己ノ利益ノ爲メニ之ヲ主張スルモノナレハ法律ハ之ヲ保護スルニ非サレハ竟ニ社會ノ秩序ヲ亂スニ至ラン是ヲ以テ今日ノ法律ハ其保護スヘキ占有ノ範圍ヲ以テ自己占有ニ止ムヘシトスルヲ常トス我民法亦之ニ倣ヘラセシメ置キタルニ在リ

終ニ一言スヘキハ所有ノ占有ノミヲ法律カ保護スヘキモノナリト論スル學說ハ未タ其勢力ヲ失ハスト雖モ是レ「イモリシ」ノ所有權說ニ心酔セル學說ニシテ強ヒテ其主張ヲ貫カシムル爲メニ法律カ保護スル占有ノ範圍ヲ特ニ制限スルモノナリ此說ハ近世ノ法律ノ上ニ於テノミナラス總テ羅馬法ニ於テモ成立スルコトヲ許ササルモノナリ蓋シ羅馬法ニ於テモ法律カ保護スル占有ハ尙

民法總則 占有 占有保護ノ理由

ホ廣キ範圍ニ於テ之ヲ認メリ即チ羅馬法ニ於テ占有ヲ保護スル最モ重ナルハ
 國有ノ土地ニ對シテ羅馬人カ取得スル占有ニ是ナリ此場合ニハ其土地ノ所有ハ
 國家ニ在ルコト明白ナレハ其土地ヲ占有スル者ハ皆所有ノ意思ヲ有スルヲ得
 ス隨テ自己ノ爲メニスル意思ヲ有スルニ過キサルナリ是ニ由リテ觀ルニ法律
 ノ保護スル占有ハ所有ノ占有ノミニ在リトスルハ既ニ法律ノ沿革ノ上ニ於テ
 其誤謬タルハ明カニシテ亦狹隘ニ失スルモノト謂ハサルヘカラス

第三章 占有ノ種類

廣義ノ占有ノ範圍ハ前款章ニ大略之ヲ説明セリ本章ニ於テハ單ニ狹義ノ占有
 中ニ就キ法律カ保護スル占有即チ自己占有ニ付テ其種類ヲ説明セシメ範圍
 第一ニ正權原ノ占有及ヒ無權原ノ占有ヲ區別スルニシテハ其種類ヲ區別スル
 正權原ノ占有トハ占有スルニ相當ノ權原ヲ有シテ占有スルモノヲ謂フ例ヘハ
 所有者カ占有セルハ此場合ニ屬ス無權原ノ占有トハ占有スルニ相當ノ權原ヲ
 占有スルモノヲ謂フ例ヘハ盜取シテ占有シ拾取シテ占有スル如キ皆之ニ屬ス

第二ニ善意ノ占有及ヒ惡意ノ占有ニ分ルニシテ其種類ナリ占有者カ占有ノ權原ナ
 此區別ハ主トシテ無權原ノ占有ニ就キ存スル分類ナリ占有者カ占有ノ權原ナ
 キコトヲ知ラスシテ却テ正當ノ權原アルモノト確信シテ占有スルモノヲ善意
 ノ占有ト謂フ例ヘハ他人ノ物カ誤リテ自己ノ家屋中ニ在リタル場合ニ之ヲ自
 己ノ所有物ト確信シテ占有スル如シ所謂善意ノ何タルモノニ付テハ學者ノ見解
 多少異ナル所アリ或學者例ヘハ「スタテンシダ」如キハ善意トハ單ニ其無權原
 ナルヲ知ラサルノ消極的狀態ヲ以テ足ルトセリ法律ハ多クノ場合ニ於テ善意
 ノ文字ヲ單ニ知ラサルト云フ消極ノ狀態ニ適用スルノ例擧シトセス故ニ此
 說ノ起ル亦理由ナキニ非ス然レトモ占有ノ場合ニ於テハ善意ノ意義ハ普通ト
 異ナリ其效果ニ於テ重キ區別ヲ存シ隨テ普通ノ場合ヨリハ嚴格ナル意義ニ於
 テ用ヒラレ單ニ知ラサルノ消極的狀態ヲ指サス其權原ナキコトヲ權原アリト
 確信スル事實アルコトヲ必要トシタルモノナリ此點ハ近世ノ學者ノ概シテ是
 認スル所ナリ唯稀ニ善意ノ意義ヲ一層嚴格ニ用ヒ其確信ニ付テ何等ノ過失ヲ
 認メサルヲ必要トスル者アリ例ヘハ「デンプルヒ」ノ如シ此說ハ極メテ確實ナ

ル意義ニ善意ナル文字ヲ解釋シタルモノニシテ一ノ有力ナル學說ナルモ我新民法ニ所謂善意ノ占有ハ此說ヲ採用セス單ニ權原ナキコトヲ權原アリトノ確信アリタル事實アレハ之ヲ善意ノ占有ト稱スルモノナリ惡意ノ占有トハ之ニ反シテ以上ノ確信ナキモノヲ謂フ例ヘハ机上ニ友人カ忘レ置キタル書籍ヲ自己ノ所有ノ書籍ナリト確信セスシテ漠然之ヲ占有セル場合ノ如シハ盜竊ニ就テ第三ニ過失アル占有及ヒ過失ナキ占有ニ別テ善意ノ占有ト稱スル區別ハ主トシテ善意ノ占有ニ付テ存スル區別ニシテ過失アル占有トハ善意ノ占有ニ於テ權原アリト確信シタルコトカ過失ニ出テタルヲ謂フ此場合ニ過失アリト云フニハ主觀的ニ其人ニ就テ判斷スルニ非スシテ客觀的ニ之ヲ判斷スルモノナリ例ヘハ此人アリ街路ニ於テ物ヲ拾ヒ直チニ自己ノ物ト確信シタル如キハ即チ過失アル占有ナリ何トナレハ其確信ハ相當ノ注意ヲ用ヒタルモノニ非サレハナリ其相當ノ注意ヲ用ヒタルヤ否ヤハ其人ニ就テ判斷セス社會一般ヨリ觀察シテ此場合ニ爲スヘキ注意ヲ怠リタルトキハ過失アリト云フモノナリ之ニ反シテ其確信ハ十分ナル注意ヲ用ヒテ後ニ生シタルモノニシテ

全ク過失ヲ存セザルトキハ之ヲ過失ナキ占有ト謂フ例ヘハ強盜者自占ノ如クハ第四ニ公然占有及ヒ隱祕占有ニ別テ善意ノ占有ニ別テ公然占有ト稱スル區別ハ主觀的ニ其人ニ對シテ明白ニシテ之ヲ外部ニ表ハシテ占有スルモノヲ謂フ例ヘハ公然店頭ニ列チテ占有スル如キハ公然ノ占有ナリ隱祕ノ占有トハ其占有ノ狀態カ秘密ニシテ之ヲ外部ニ表ハサズ内部ニ於テ私ニ占有スルモノヲ謂フ例ヘハ私ニ倉庫中ニ占有スル如キ是ナリ

第五ニ平穩占有及ヒ強暴占有ニ別テ強暴ノ占有トハ暴行若クハ脅迫ニ因リテ占有ヲ取得シ若クハ占有ヲ維持スルモノヲ謂フ例ヘハ強盜若クハ恐喝ニ因リテ得タルモノハ此種類ニ屬ス平穩ノ占有ハ之ニ反シテ暴行又ハ脅迫ヲ用ヒスシテ占有スルヲ謂フ例ヘハ街路ニ落シタル物ヲ拾ヒタル如キ即チ是ナリ

第六ニ占有及ヒ準占有ニ別テ準占有ト稱スルモノハ此區別ハ占有ノ目的物ニ依リテ分類セルモノナリ占有ノ目的物カ有體物ナルトキハ之ヲ占有ト謂ヒ其目的物カ權利ナルトキハ之ヲ準占有ト謂フ此區別ハ

頗ル重要ナルモノニシテ後ニ準占有ヲ述フルトキニ至リテ更ニ詳述スル所アルヘシ

第四章 占有權ノ取得及ヒ喪失

第一節 占有權ノ取得

本章ニ於テハ占有權ノ取得及ヒ占有權ノ喪失ハ如何ナル原因ニ因リテ其效力ヲ生スルヤ換言スレハ占有權ノ取得及ヒ喪失ノ原因ニ付テ研究セントス而シテ本節ニハ先ツ占有權ノ取得原因ニ付テ説明スヘシ
占有權ハ如何ナル原因ニ由リテ之ヲ取得スルヲ得ルカ之ニ關シテ一原則アリ則チ占有權ノ取得ニハ二箇ノ要件ヲ具備ヲ要ス民法第一八〇條參照一ハ占有權ノ客觀的要素ニシテ支配ノ事實アルコト是ナリ支配ノ事實トハ法律ノ用語ヲ以テ説明スレハ物ノ所持ノ義ナリ一ハ占有權ノ主觀的要素ニシテ自己ノ利益ノ爲メニ之ヲ支配スルノ意思アルコト是ナリ蓋シ民法ニ所謂占有權トハ法律ノ保護スル占有ノ義ニ外ナラス法律ノ保護スル占有トハ即チ自己占有ノ謂

ナルコトハ既ニ説明セシ所ナリ而シテ所謂自己占有トハ自己ノ利益ノ爲メニ支配スルノ意思ヲ以テ物ヲ支配スルノ事實ヲ指スモノナリハ前掲二箇ノ要素ヲ具備スルコトキハ自己占有成立シ即チ占有權成立セシムルコトキハ其ノ第一ニ占有權ノ取得ニ必要ナル各條件ニ付テ研究センコトキハ其ノ第二ニ第一ニ支配ノ事實トハ何ゾ之ニ關シテハ或ハ五體ノ中ニ所持スルヲ以テ支配ノ事實ト爲シ或ハ自己ノ近傍ニ置クヲ以テ支配ノ事實トシ或ハ物ノ上ニ處分ヲ爲スノ實力ト他人ヲ排斥シ得ルノ實力トノ二箇ノ條件ヲ具備セハ支配ノ事實アリトスル等ノ諸說アルモ要スルニシテハ氏カ所謂支配ノ事實トハ物ノ通常ノ有様ニ從フトキハ其物ノ上ニ處分ヲ爲シ得ル實力ノ存在スルヲ謂フトノ說ヲ以テ最モ適當ナリトス之ニ關シテハ既ニ本編第一章ニ於テ説明セルヲ以テ之ヲ贅セス唯デルシブルヒ氏ノ所謂物ノ通常ノ有様ニ從ヒ處分スルノ實力アリト認ムルヲ得ル場合ニ付キ三四ノ例ヲ舉テ其學說ヲ説明ニ費セントス即チ一目的物ヲ動産ナル場合ハ(ア)動産ヲ自己ノ管理ノ下ニ置クトキハ支配ノ事實アリトス自己ノ管理ノ下ニ置クトハ例ヘハ自己ノ身體ノ中ニ振持セ

ルカ又ハ自己ノ住居セル家屋ノ中ニ置タカ若クハ自己ノ所有倉庫ノ中ニ收メル等ヲ謂フ(イ)動産ニ自己ノ姓名ノ記入シタルトキハ亦事實上ノ支配アリトス但此場合ニハ最モ容易ニ他ヨリ其占有ヲ奪ハルル處アリ(ウ)動産ヲ藏置セル場所ノ鍵ヲ所持セルトキハ亦支配ノ事實アリトス(二)目的物カ動物ナル場合ニハ動物カ野獸ナルト家畜ナルトニ依リ其認定ヲ異ニス即チ(ア)野獸ナルトキハ其生命ヲ絶テ若クハ其自由ヲ全ク奪フトキ支配ノ事實アリトス(イ)家畜ナレバ其自由ヲ全ク奪ハサルモ場所ヲ與フルトキ(例ヘハ其邸宅ニ置タカ如シ)ハ支配ノ事實アリトス(フ)目的物カ不動産ナル場合ニハ(ア)其家屋ナレバ之ニ住居スルトキ若クハ番人ヲ置クトキ又ハ其家屋ノ鍵ヲ所有スルトキハ支配ノ事實アリトス又(イ)土地ナレバ其土地ニ家屋ヲ建築シ若クハ其土地ニ圍障ヲ設ケ若クハ其土地ニ付テ登記ヲ爲シタルトキハ支配ノ事實アリトス此等ノ場合ハ支配ノ事實ヲ認ムヘキ最モ重ナル場合ナリトス之ヲ要スルニ吾人ハ常識ヲ以テ判斷シ物ノ通常ノ有様ニ從フトキハ其物ノ上ニ處分ヲ爲シ得ルノ實力アリト認ム得ルトキハ即チ支配ノ事實アリト謂フ(三)動産自占自留ニ據ルハ(イ)自留ニ據ルハ

第二ノ自己ノ利益ノ爲メニ支配スルノ意思トハ何ゾ是レ占有者ノ意思ニ付テ存在ヲ必要トスル條件ニシテ即チ(一)支配スルノ意思(二)自己ノ利益ノ爲メニスルノ意思(三)要件ノ具備スルヲ要ス此要素ハ支配ノ事實ナルトキハ通常直チニ其存在ヲ推定スル原則トス固ヨリ反證アルトキハ此限ニ在ラサルハ言フヲ缺タサルナリ而シテ占有者ノ意思ニ關スル狀態ハ通常占有權ヲ取得スル原因ニ付キ研究セハ自ラ之ヲ明カニスルコトヲ得例ヘハ雇人カ主人ノ命ヲ受テテ物ヲ引渡ヲ受ケタルトキハ雇人ハ必ズ主人ノ爲メニスルノ意思ヲ有スルモノニシテ自己ノ利益ノ爲メニスルノ意思ヲ有スルニ非ズト推定スルカ如シ而シテニシテ占有ノ主體ニ生シタル意思ノ狀態ハ繼續スルモノト推定シ其意思ノ變更ハ之ヲ行爲ニ依リ外部ニ表シ若クハ新ナル法律上ノ原因ニ由リテ其意思ノ變更ヲ外ニ發表スルヲ要ス其意思ニ變更ナキモノト推定スルヲ原則トス第一八五條參照而シテ此等占有ノ主體ニ付キ存在ヲ要スル意思ハ意思能力ヲ有スルニ非シテハ其存在ヲ認ムルヲ得サルハ勿論ナリ隨テ精神病ニ因リテ精神ヲ喪失シタル者又ハ乳兒ノ如キハ此意思ヲ有スルコトヲ得ス隨テ占有

ノ主體ト爲ルヲ得サルモノトス。其ノ取得ハ、前記ノ如ク、占有權ノ取得ニ依リ、終ニ占有權ノ取得ニ付テ一言スヘキモノアリ。即チ占有權ノ取得ニ依リ、一般ノ權利ノ取得ト同シク原始的ノ取得ト承繼的ノ取得トノ二種アルヤ否ヤノ問題はナリ。此點ニ付テ考フルニ占有權ノ取得ハ原始的ノ取得ナルヲ原則トス蓋シ占有權ノ取得ハ前述セル原則ニ依リ必ス二箇ノ要件ヲ具備スルヲ必要トシ此二箇ノ要件ヲ具備セハ何時ト雖モ當然占有權ヲ發生スルモノニシテ其前ニ占有權カ存在セルヤ否ヤハ問フ所ニ非サレハナリ例ヘハ占有權ヲ他ヨリ讓渡ニ因リテ得タル場合ト雖モ其占有權ヲ取得セルハ占有權取得ノ原則ニ依リ彼ノ支配ノ事實ヲ存セルト自己ノ利益ノ爲メニ支配スルノ意思ヲ有スルトノ二條件ヲ具備ニ依リ始メテ其占有權ノ存在ヲ認定スルモノニシテ此等ノ條件ノ具備セザルトキハ縱令讓渡ノ行爲アリトスルモ未タ占有權ノ存在ヲ認メサルナリ是レ占有權ノ取得ハ單ニ原始的ノ取得ナリトスル所以ナリ此ノ如ク占有權ノ取得ハ原始的ノ取得ヲ原則トシ其取得ニ必要トスル條件ノ具備スル時ヨリ新ニ發生スルモノトス是ヲ以テ惡意ノ占有ヲ讓渡シタルトキト雖モ其讓渡ヲ受ケタ

ル者カ占有權ヲ取得スルノ時期ニ於テ善意ヲ有スルトキハ其占有ハ即チ善意ノ占有ニシテ復タ惡意ノ占有ニ非ス之ニ反シ善意ノ占有ヲ讓渡シタルトキト雖モ其讓渡ヲ受ケタル者其占有權ヲ取得スルノ時期ニ於テ惡意ナルトキハ其占有ハ善意ノ占有ニ非スシテ却テ惡意ノ占有ト爲ルナリ之ヲ要スルニ占有權ノ取得ハ前ニ述ヘタル二條件ノ具備スルヲ挾ツモノニシテ此事實アレハ占有權ヲ發生シ此事實ナクシハ占有權ハ決シテ發生セザルモノトス是レ實ニ本則ナリ然リト雖モ占有權ヲ取得スルニ當リ前人ノ有スル占有權ヲ承繼シタル場合ニハ其人ノ新ニ得タル占有ヲ主張スルノ外向ハ前人ノ有セシ占有權ヲモ併セ主張セシムルハ決シテ前人ノ意思ニ反セズ却テ承繼ノ趣旨ニ適フモノニシテ亦何人ヲモ損害スルコトナクシテ後人モ却テ之ヲ便利ナリトスルコトアルヲ以テ法律ハ例外トシテ特ニ此自由ヲ與ヘタリ即チ占有ノ承繼人ハ自己ノ占有ノミヲ主張スルノ外亦前人ノ占有ヲ併セ主張スルコトヲ得ルモノトス(第一八七條第一項參照但此場合ニハ法律ノ規定ニ依リ前人ノ占有ノ狀態ヲ承繼スルモノタルヲ以テ前人ノ占有ノ利益及ヒ瑕疵共ニ之ヲ承繼セサルヘカラサル

ハ當然ノ事ナリトス(第一八七條第二項參照)其ニモ、
第二節 代理人ニ依ル占有權ノ取得

代理ノ觀念ハ近世ノ法律ニ於テハ實際ニ必要ニ迫ラレ公法私法ヲ論セズ弘ク
一般ニ行ハレ吾人ノ日常生活ニ間亦頗ル便利トスル法律關係ナリ占有權ノ取
得ニ付テモ近世ノ法律ハ代理ノ觀念ヲ適用シ代理人ニ依リテ占有權ヲ取得ス
ルコトヲ認メタリ是ニ於テ占有權ノ取得ハ唯本人自身ノ行為ニ依ルモノナ
ラス亦代理人ノ行為ニ依リ其效力ヲ生スルコトアリトス(代理人ノ行為ニ依
然ラズ代理人ニ依リテ占有權ヲ取得スルニ當リテハ如何ナル條件ヲ具備スル
コトヲ要スルカ此場合モ亦占有權取得ノ大原則ニ支配セラレルモノナリト雖
モ代理ノ關係ヲ伴フヲ以テ同時ニ代理ノ原則ニモ支配セラレ其結果左ノ三條
件ヲ具備スルコトヲ要ス此古語則チ「代理人ノ行為ニ依リテ占有權ヲ取得スルニ當リテハ如何ナル條件ヲ具備スルコトヲ要スルカ此場合モ亦占有權取得ノ大原則ニ支配セラレルモノナリト雖モ代理ノ關係ヲ伴フヲ以テ同時ニ代理ノ原則ニモ支配セラレ其結果左ノ三條件ヲ具備スルコトヲ要ス」
第一ニ代理人カ占有ノ目的物ヲ支配スルノ事實アリトス(代理人ノ行為ニ依
テ)第二ニ代理人ニ於テ本人カ爲メニ占有スルノ意思ヲ有ス(代理人ノ行為ニ依
テ)

第一款 俘虜ノ性質

古代ニ於テハ戰爭ノ俘虜ハ其捕獲者ノ所有トシ其人格ヲ認メナリシカ故ニ捕
獲者ハ之ニ對シ生殺與奪ノ自由ヲ有シタルヲ以テ其生命ヲ奪ハス奴隸トシテ
終身之ヲ使役スルハ寧ロ寛大ノ行為ト看做サレ俘虜ハ賣買贈與ノ目的物ト爲
リ千四百四十一年當時仁君ト稱セラレタル佛國王シャルル第七世スラ英國人
ノ俘虜ヲ裸體トシ鎖ヲ以テ其頸ヲ繫キテ巴里市中ニ驅シ之ヲ賣買シ其殘餘ハ
手足ヲ縛シテ之ヲセイン河ニ投棄シタルコトアリテ俘虜ヲ奴隸ト爲スノ慣習
ハ第十八世紀ノ初ニ至ルマテ存續セリ然ルニ中世騎士制度ノ發達ニ際シ捕獲
者ヲ奴隸トシ終身之ヲ使役スルノ代リニ金銀ヲ以テ自ら賠償セシムルノ慣行
ヲ生シ當初其約定ハ箇人的ノモノナリシカ第十四世紀以後ニ於テハ戰爭後國
王カ敵國ヨリ自國人民ノ俘虜ヲ賠償シタル者ト多ク第十七世紀ニ入リテハ國
家間ノ條約ヲ以テ其代價ヲ定メ之ヲ賠償スルコト行ハレ又此賠償ノ慣例起リ
タルト殆ト同時ニ交戦ハ互ニ俘虜ヲ交換シテ歸國セシムルノ慣行ヲ生シ賠償

ト交換トフ同一條約中ニ規定セラレタルコト抄カラス斯ル條約ノ最後ノモノハ千七百八十年英佛條約ニシテ同條約ニ於テハ將官ハ兵士六十名ト交換シ兵士一名ヲ一磅トセリ然ルニ「グアテマラ」ノ著書以來俘虜ニ關スル慣例ハ非常ニ寛大ニ赴キ同氏ハ曰ク敵人ニシテ兵器ヲ捨テ身體ヲ自國ニ委ケタル者ハ其以後ノ行為ニ關シ之ヲ殺戮シ得ヘキ權利ノ發生スルカ又ハ死刑ニ該當スル犯罪アリタルニ非ザレハ其生命ヲ奪ヒ又ハ奴隸ト爲スコト能ハストシ總テ俘虜ハ之ヲ拘留シ得ヘキモ虐待スヘキモノニ非ス俘虜モ亦人類ニシテ就中不幸ナル者ナリト説キ現今國際公法ニ於テ俘虜ノ性質ヲ約言スレハ總テ俘虜ハ國家ノ俘虜ニシテ之ヲ捕ヘタル箇人又ハ軍隊ニ屬スヘキモノニ非ス又決シテ犯罪人ニ非ナルノミナラス敵國ニ對スル復讐ノ目的物ト爲スコトヲ許サスシテ俘虜ハ敵國ノ戰闘員又ハ敵軍ニ盡力スル箇人ニシテ降服若クハ捕獲セラレ自國ノ權力ノ下ニアル無事ノ敵人ト看做シ仁愛ノ心ヲ以テ待遇セラレヘキモノト爲レリ」

戰爭ニ於テ俘虜ト爲シ得ヘキ人員ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一 總テ戰爭ニ於テ之カ殺傷ヲ行ヒ得ヘキ者即チ一切ノ戰闘員ハ勿論其病

者負傷者ハ千八百六十四年ジネヱグア條約ニ依ルヘキモノナレドモ俘虜ノ資格ヲ失ハス中國ニ關シテハ「其本夫ハ譯中自ニ譯シテ其意ヲ以テ」

第二 非戰闘員ハ原則トシテ之ヲ俘虜ト爲スヘカラスト雖モ素ト敵人ヲ俘虜トシテ戰爭中自國ニ拘留シ置クハ敵人ニ加害シ得ヘキ原則ノ適用上最モ寛大ノ行為ナルカ故ニ戰闘ノ進行上其作戰ニ關シ斯ル拘留ヲ爲スコトヲ自國ノ必要若クハ便宜トシ又ハ其拘留カ敵國ニ取リテ不利益ト見ルヘキ非戰闘員ハ之ヲ俘虜ト爲シ得ヘシ隨テ(一)敵國ノ君主皇族政府ノ高官外交官其他特別ノ事情ニ因リ戰爭ニ關シテ敵國ノ有力者ト認ムヘキ者(二)兵器ヲ以テ戰闘ヲ爲ササルモ軍隊ニ使用セラレ其動作ヲ補助スル者例ヘハ陣中ノ警察裁判ヲ行フ官吏軍吏憲兵其他軍隊ノ行政ニ關スル官吏輕氣球乗者軍隊嚮導者通信員電信郵便ノ技術者等ノ如シ但軍隊ノ一部ヲ組成スル戰時假病院又ハ綑帶所ノ醫員其他之ニ附屬ノ人員ハ赤十字條約ノ規定ニ因リ俘虜ト爲スコト能ハス(三)商船ノ船員ニシテ敵國ノ人民ナルモノハ其國海軍ノ必要ニ從ヒ何時ニテモ軍艦ニ轉用セラレ又諸國ニ於テモ國法ヲ以テ之ヲ徵用スルコトト爲シ居ルカ故ニ敵國ノ海

軍力ヲ弱ムルノ必要上俘虜ト爲シ得ヘク千七百五十三年英國ハ佛國商船ノ水夫一萬二千人ヲ俘虜ト爲シタルカ爲メ佛國ノ海上戰團力ニ一大打擊ヲ與ヘタルハ其一例ナリ千八百七十年普佛戰爭中佛國ハ獨逸商船ノ水夫ヲ俘虜トシタルニ普國ハ之ニ抗議シ其水夫ヲ直チニ解放スルニ非サレハ報仇ヲ爲スヘキコトヲ以テシ其理由トシテ商船ノ水夫ヲ俘虜ト爲スノ目的ハ敵國人民カ私船ヲ以テ捕獲ヲ行フ者ヲ滅却スルニ在リ然ルニ佛國及ヒ普國ハ共ニ千八百五十六年巴里宣言ノ締約國ニシテ私船ヲ以テ拿捕ヲ行ハサルコトト爲シ居ルカ故ニ兩國間ニ於テハ商船ノ水夫ヲ俘虜ト爲シ得ヘキ理由ナシトシ佛國政府ハ之ニ答ヘテ交戰國カ敵國商船ノ水夫ヲ俘虜ト爲シ得ヘキ慣法ノ存在ハ古來爭フヘカラサル所ニシテ巴里宣言ノ規定ニ關係ナク之カ俘虜ト爲シ得ヘキ理由ハ商船ノ水夫ハ何時ニテモ海軍ニ轉用セラレ得ルニ在ルコトヲ以テセリ之ヲ要スルニ商船ノ水夫ハ一般ノ非戰團員トハ特別ノ性質ヲ有シテ恰モ非戰團員ト戰團員トノ中間ニ立ツモノト見ルヘク其水夫ハ戰爭中自ラ進テ敵軍ヲ攻撃シ能ハスト雖モ其商船ノ捕獲ヲ防禦スルカ爲メ敵國艦船ノ拿捕ニ對シテハ兵力抵

抗ヲ爲シ得ヘク其兵力抵抗ノ爲メ一般非戰團員ノ場合ノ如ク處刑セラレルコトナシ赤十字條約第二條ニ戰地假病院及ヒ陸軍病院ニ使用スル人員即チ醫員監督員事務員負傷者ノ運搬員並ニ說法者ハ各其本務ニ從事シ負傷者ヲ入院スヘク若クハ救助スヘキ者アルトキハ中立ノ利益ヲ有スト規定シ在ルカ故ニ交戰國ノ陸軍ニ屬スル病院及ヒ戰地假病院ノ醫師其他ノ事務員ハ假令之ヲ捕獲スルモ決シテ俘虜ト爲スコト能ハス又海戰ニ於テ平和會議ノ決議ニ係ル赤十字條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約第一條乃至第三條ニ於ケル交戰國ノ軍用病院船又ハ交戰國若クハ中立國ニ於ケル商人又ハ公認セラレタル救恤協會ノ費用ヲ以テ幟裝シタル病院船ニシテ其所屬國ヨリ官ノ命令ヲ付シ交戰國ニ豫メ通知シアル船舶内ニ在リテ救法醫療及ヒ看護ニ從事スル人員ハ俘虜ト爲スコト能ハサルノミナラス同條約第七條ノ規定ニ因リ交戰國ノ軍艦其他ノ官船又ハ一般ノ私有船舶カ敵國ノ爲メ捕獲セラレタル場合ニ其艦船内ニ在リテ救法醫療及ヒ看護ニ從事スル人員モ均シク俘虜トセラレルコトナシ然レトモ(四)說法者若クハ醫師ニシテ陸戰ニ關シ戰地假病院又ハ陸軍病院ニ屬セス若クハ

赤十字社ノ如キ公認セラレタル救恤協會ノ職務ニ從事スルコトナク單ニ商人ノ資格ヲ以テ軍隊ニ從事シ居ル者ハ俘虜ト爲シ得ヘキヤ否ヤニ付テハ議論アル所ナレトモ米國陸軍訓令第五十三條ニ於テモ陸軍司令官ハ事情ニ依リ説法者醫師藥劑師等ヲ拘留シ得ヘク之ヲ俘虜トシテ待遇シ司令官ニ於テ相當ト認ムルトキハ交換シ得ヘシト規定シ古來斯ル人員ヲ俘虜ト爲スヘカラストスル法則ハ赤十字條約及ヒ平和會議ノ條約ノ規定ヲ除ク外ハ存在シタルコトナキカ故ニ此等條約規定ノ範圍外ニ在ル者ハ自ラ俘虜ト爲シ得ヘキカ如シ

第二款 俘虜ノ待遇

俘虜ノ待遇ニ關スル原則トシテ俘虜ハ總テ國家ノ俘虜ナルカ故ニ捕獲者ニ於テ任意ニ之ヲ解放シ又ハ任意ノ待遇ヲ爲スコト能ハス戰爭中自國ニ之ヲ拘留シ置クハ敵國ヲシテ其人員ヲ使用スルコト能ハス又俘虜カ本人ヲシテ其本國ノ戰鬪力ヲ増加スル行爲ヲ爲スコト能ハシメザルト同時ニ自國ニ於テモ敵國人ノ俘虜ヲ使用シテ兵力ヲ増スコト能ハシメザルニ在リテ俘虜ハ國家ノ權力

ノ下ニ在ル罪ナキ敵人ナルカ故ニ博愛ノ心ヲ以テ待遇スヘク單ニ其逃亡ヲ防キ得ヘキ範圍内ニ於テ其身體ノ自由ヲ拘束シ得ヘキニ過キス又戰地中又俘虜ノ逃亡ヲ豫防シ之ヲ安全ニ拘留シ得ヘキハ交戦國ノ絕對的權利ニ屬シ俘虜ハ之ヲ捕獲シタル軍隊ヨリ本國ニ送附スルカ又ハ戰地ヨリ隔タリタル場所ニ護送シ拘留國陸海軍ノ法律規則並ニ其命令ニ服從セシメ得ヘク陸戰ノ法規慣例條約第八條ニ俘虜ハ之ヲ其權内ニ屬セシメタル國ノ陸軍現行法律規則及ヒ命令ニ服從スヘシ總テ不從順ノ行爲アルトキハ俘虜ニ對シテ必要ナル嚴重手段ヲ施スコトヲ得ト規定シ拘留ノ安全ニ必要ノ程度以外ニ於テ其自由ヲ拘束セラレ虚待ヲ受クルコトナク又其拘留ヲ安全ニスルニ必要ナル程度以内ナル拘束ニハ俘虜ニ於テモ之ニ服從スルノ義務アルモノトス夫故ニ俘虜ヲ脅迫シテ敵軍ノ兵力敵軍ノ位置又ハ作戰ノ計畫等ノ言明ヲ爲サシムルコト能ハス又其携帶ノ財産モ本國政府ニ屬スルモノハ之ヲ沒收シ得ヘシト雖モ私有ノ財産ニシテ兵器馬匹軍用書類等戰鬪用ノ物件ヲ除ク外ハ其所有ヲ保護セラレ戰爭終了ノ際其他俘虜ノ歸國スルニ方リテ之ヲ返還スヘキモノトス

俘虜ノ拘留所ニ付テハ其安全ヲ圖ルカ爲メ逃亡ヲ防クニ必要ナル拘束ヲ爲シ得ルノミナラス其監督ヲ容易ナラシムル爲メ市邑城寨陣營其他一定ノ場所ニ留置シ或ハ一定ノ疆界以外ニ出テサルヘキ義務ヲ之ニ負ハシメ得ヘシト雖モ已ムヲ得サル保安手段ニ出ツルノ外ハ之ヲ幽閉スルコト能ハス陸戦法規慣例條約第五條參照シテ其取締上一定ノ場所ニ拘留シ又ハ其居留及ヒ散步ノ場所ヲ限局シ得ヘシト雖モ逃亡ヲ企ツルカ又ハ逃亡ヲ爲スノ虞アルカ若クハ犯行アリタル場合ニ非テハ獄中ニ投シ又ハ禁錮スルヲ許サス其拘留所ノ如キモ成ルヘク清潔ニシ健康ヲ害スルノ憂ナク又軍人ノ名譽ヲ保護スル必要上之ヲ監獄其他罪人拘留所ニ接近セシメ以テ普犯罪人ト同一視セラルルノ嫌アル取扱ヲ避クヘキモノトス

俘虜拘留中ニ於ケル衣食住其他生活ノ費用ハ拘留國ニ於テ負擔シタルコトアリ本國ヨリ支拂ヒタルコトアリテ此問題ノ詳細ハ交戰國間ノ約定ニ因リ決定セラルルコトアレトモ第十八世紀ニ於テハ總テ之ヲ本國ヨリ支給シ戰爭中又ハ戰爭後ニ於テ其費用ヲ計算シ本國ヨリ支拂フコト一般ノ慣例ト爲リ本國ヨ

リ其取極ヲ爲ササルハ國家ノ恥辱ト看做テレタリシカ現今ニ於テハ此慣例一變シ交戰國ハ自國ノ費用ニテ俘虜ヲ給養スヘキコトト爲リ陸戦法規慣例條約第七條ニ於テ政府ハ其權内ニ在ル俘虜ヲ給養スヘキ義務アリ交戰國間ニ特定ノ協定ナキ場合ニハ食料寝具及ヒ被服ニ關シテ俘虜ハ之ヲ捕獲シタル政府ノ軍隊ト對等ノ取扱ヲ受クヘシト規定シ其給養ニ關シテ兩國間ニ特別ノ約定アルトキハ固ヨリ其規定ニ從フヘシト雖モ然ラサルトキハ自國ニ於ケル同等軍人ニ相當スル給養ヲ爲スヘク俘虜ノ身分階級ニ應ジ各之ニ相當ノ待遇ヲ與フヘキモノトス又俘虜ノ生活費用ヲ各交戰國ノ負擔ト爲スニ至リタルハ戰爭中若クハ戰爭後ニ於テ其相互國間ニ於テ之ヲ計算スルハ煩ヲ省キ其費用ハ戰爭終了ニ際シ戰敗國ヨリ支拂フヘキ償金其他媾和條約ノ條件ノ取極ニ因リテ互ニ辨濟セラルヘキモノト看做サルニ在リトス然レトモ媾和ノ際償金其他ノ條件ヲ定ムルニ付キ特ニ俘虜ノ生活費用ヲ明細ニ計算シテ償金中ニ算入スルニ非スシテ單ニ媾和條件ノ取極ニ於テ其費用ヲ包含セラレ居ルモノト看做サルニ過キス

時トシテハ俘虜ニ衣食住ノ費用ヲ支給スルノ外金銀上ノ手當ヲ爲シタルコトアリ千七百九十三年佛國政府ハ法令ヲ以テ敵國ノ俘虜ニ對シ其階級ニ相當スル佛國將士ト同一ノ手當ヲ與スルモノトシ千八百七十年佛國ハ千八百五十九年二月六日ノ法律ニ基キ獨逸人ノ俘虜ニ對シ一箇月毎ニ四磅乃至十三磅十志ヲ將校ニ與ヘ兵士ニハ一日毎ニ七先令ヲ給シ獨逸國ハ佛國將校ノ俘虜ニ一磅十六志乃至三磅十五志ノ手當ヲ給與シタルハ其實例ナリ然レトモ國際公法ノ原則トシテハ俘虜ノ健康及ヒ名譽ヲ害セザル範圍内ノ給養ヲ爲スルキニ止マリ其以外ニ金銀上ノ手當ヲ與フルノ義務ナク斯ル優待ヲ爲スルハ各交戰國ノ任意ニ在ルモノトス又陸戰ノ法規慣例條約第十七條ニ於テ俘虜將校ハ本國ノ規則ニ其規則アルトキハ俘虜ノ地位ニアリテ給與セラレヘキ給料ヲ受タルコトヲ得但右ハ其本國政府ヨリ召還スヘキモノトス規定シ俘虜カ其拘留中本國政府ヨリ支給セラレヘキ斯ル給料ヲ拘留國政府ヨリ支拂ヲ受ケ得ヘキモノトシ其支拂ニ付テハ媾和ノ後特別ニ計算シテ本國政府ヨリ返還スルコトト爲シタルハ米國陸軍訓令ニ於ケル宣言及ヒオックスフォード陸戰法規ニ其規

定ナク又實際列國間ニ其慣例ノ存在シタルコトオキ故ニ現行國際公法ニ法則ニ非スシテ平和會議ノ條約ノ結果ニ出テ締盟國ニ限り條約上ノ義務トシテ之ヲ遵守スヘキニ過キス附合ニテ實證ヲ得ルハ此ノ條約文ニ一箇人ノ欲ク交戰國ハ俘虜ヲ勞役シ得ヘキヤ否ヤニ付テハ議論アリテカレダニ強制的ノ勞役ヲ非認シテ俘虜ノ自由ニ干渉スルモノトシ拘留國ハ自國ノ兵士ニ對シテモ斯ル勞役ヲ與ヘサルヲ普通トスルカ故ニ俘虜ニ勞務ヲ強制シ能ハサルモノトセリ然レトモヘフタルニ始メ多數ノ學者ハ之ニ反對ノ意見ヲ有シ俘虜ヲシテ何等ノ業務ヲモ執ラシムルコトナク永ク給養シ置テハ社會一般ノ不利益ニシテ又戰敗國ハ之ヲ爲メ媾和ニ關シテ諸種ノ不利益ナル負擔並ニ戰爭ノ莫大ナル費用ノ外ニ於テ俘虜ノ衣食住ノ費用ヲモ加ヘ其負擔ヲ重スヘキカ故ニ俘虜ニ相當ノ勞力ヲ與ヘテ生活ノ費用ヲ補助セシメ得ヘク俘虜自身ニ於テモ亦相當ノ業務ヲ得テ賃銀ヲ取得スルハ却テ拘留中ノ無聊ヲ慰ムヘキカ故ニ交戰國ハ當ニ勞務ヲ俘虜ニ命ジ得ヘキノミナラス拘留國政府ノ取締規則ニ反セザル以上ハ俘虜自ラ進テ賃銀ヲ得ヘキ業務ヲ求メ得ヘシトシ陸戰ノ法規慣例條

約第六條ノ規定ノ如ク國家ハ俘虜ヲ其階級及ヒ技能ニ應シ勞務者トシテ使役
 スルコトヲ得但其勞務ハ過度ナルヘカラス又一切作戦動作ニ關係ヲ有スルカ
 ラサルコトハ一般ニ是認セラレ來ラタル所ナリ此故ニ俘虜ヲ地方ノ警察其他
 作戦動作ニ關係ナキ事業ニ用ヒ得ヘシト雖モ本國ノ戰爭行為ヲ防害スルカ
 又ハ自國ノ戰闘力ヲ直接ニ増加スル業務ニ使役スコト能ハサルノミナラス俘
 虜ノ地位階級又ハ能力體力ニ注意シ其勞務ノ爲メ名譽ヲ傷ケ若クハ健康ヲ害
 スルニ至ラシムルコト能ハス加之其勞務ヲ與フルニ付テモ成ルヘク俘虜自身
 ノ利益ト爲ルヘキモノヲ與ヘ斯ル勞務ナキ場合ニ於テ始テ強制的無報酬ノ
 勞力ヲ命シ得ヘキモノトス更ニ又平和會議ノ決議ニ係ル條約第六條ニハ之ニ
 一步ヲ進メ俘虜ハ公衙一箇人又ハ自己ノ爲メニ勞務ヲ爲スコトヲ許可セラレ
 ルコトアルヘシ國家ノ爲メニスル勞務ハ内國陸軍軍人ヲ同一勞務ニ使役スル
 場合ニ適用スルト同一ノ割合ニテ賃銀ヲ給スヘク他ノ公衙又ハ一箇人ノ爲メ
 ニスル勞務ニ關シテハ陸軍官衙ト協議シ上條件ヲ定ムヘシト規定シテ無報酬
 ノ勞務ヲ俘虜ニ命スルコト能ハサルコトトセリ此規定ハ「ブルワセ」宣言其他

經濟事情尙ホ幼稚ニシテ自產自費ノ風習專ラ行ハルル時期ニ於テモ財貨ノ交
 易ノ自ラ行ハルルニ至ルハ曩ニ述ヘタル如シ此時期ニ於ケル交易ノ性質
 考フルニ各人交易ニ因リテ得以下欲スル財貨ハ自ラ消費セントスル財貨ニシ
 テ之ニ對スル欲望ノ強キモノタルハ必セリ之ニ反シテ自ラ消費セサル財貨又
 ハ既ニ多量ニ所有スル財貨ニ對シテハ交易ノ念極メテ薄弱ナルニシテ故ニ
 己ノ與ヘシテ欲スル財貨ヲ以テ直チニ自己ノ要スル財貨ヲ得ルヲ決シテ容易
 ニ非ス第一ニ欲望ノ互ニ相投合スルコト甚タ稀ナリ第三ニ縱令欲望ハ相投合
 スルモ其數量ヲ符合スルニ至リテハ殆ト稀ナリ第三ニ縱令種類ノ財貨ハ之ヲ分
 割スルト共ニ大ニ其價格ヲ減スルモノトス而シテ此等ノ不便障害ノ存スル限
 以テ交易ヲ發達期スヘカラスト雖モ種々財貨自ラ現出シテ交易ノ媒介ヲ爲シ
 以テ右ニ述ヘタル不便障害ヲ除去スルニ至ル是レ即チ貨幣ノ濫觴ナリトス
 當時尙ホ未開ノ時期ナリト雖モ財貨ノ種類ハ決シテ一二ニ止ラザルナリ而
 シテ其中ニ就キ一種ノ財貨ノ貨幣制爲ルハ如何ナリ原因ニ基キテ莫大利益
 經濟學者メシガ「白」財貨有リ此交易力ニ差異アレバ則チ交易ノ媒介ハ

推して未開ノ時代ニ於テハ交易ノ區域固ニ狹隘ナリト雖モ既ニ交易ノ行ハルルニ於テハ數多ノ財貨中他ノ財貨ニ比シテ人々之ニ對スル欲強クシテ其數量比較的ニ小ナルモノアラシキ而シテ此財貨ヲ有スル者ハ他ノ財貨ヲ有スル者ニ比シテ交易ヲ行フニ當リテ便利ナル地位ヲ占ムルニ至ラシキ之ヲ換言スレバ此種ノ財貨ヲ有スル者ハ他人ヨリ自己ノ要求ニ對シテ財貨ヲ得ルコト容易カネン是ニ於テ交易力ノ小ナル財貨ヲ有スル者ハ其財貨ヲ以テ直チニ其要スル財貨ヲ得ルノ安シヨリハ先ツ交易力ノ大ナル財貨ニ代ヘ之ニ依リテ其要スル財貨ヲ得ルノ安全ニシテ且經濟的ナルヲ悟ルニ至ルナリ是ヲ以テ最大ノ交易力ヲ有スル財貨ハ自ラ之ヲ消費セントスル者ノミナラズ之ニ因リテ更ニ他ノ財貨ヲ得ントスル者モ亦之ヲ欲望スルニ至ル此方法ノ實際有利ナルヲ悟ル者ハ其始ニ當リテハ社會一部ノ人ニ止マルヘシト雖モ此方法ノ實際有利ナルニ於テハ他人モ之ニ倣ヒ遂ニ一般ノ慣習ト爲リ即チ自ラ其財貨ヲ消費セズルモ其財貨ニ依リ何時ニテモ他ノ財貨ト交易シ得ルカ故ニ財貨又ハ勤勞等ニ對スル報酬トシテ何人モ之ヲ受取ルコトヲ購嗜セサルニ至ルベシ茲ニ於テ此財貨ハ交易ノ媒介ニ

供セラレ以テ貨幣ト爲ルナリ故ニ此種ノ財貨ハ國々試百箇十回出物ニ從テ其數多ノ財貨中一種ノ財貨カ自ラ選シテ貨幣ト爲ルニ右ニ述及タルカ如ク而シテ種種ナル財貨カ貨幣トシテ用ヒラレタルヲ見ルナリ吾々此ノ時ニ於テ其第一獸皮ノ貨幣ヲ狩獵時代ニ於テ普ク貴重セラルルハ獵獲セル野獸ナレトモ其肉ハ之ヲ蓄フヘカラス然ルニ獸皮ハ久シク之ヲ蓄藏シ得ヌク又衣服ノ料トシテ價格ヲ有スルカ故ニ草昧ノ民族獸皮ヲ以テ貨幣ト爲シタル例證少カラス」

第二 家畜ノ貨幣 牧畜時代ニ於テハ牛羊等ノ家畜最モ貴重セラレ且讓渡ニ便ニシテ多年保存シ得ルヲ以テ貨幣トシテ通用セルコト其例亦少カラス」

第三 農産物ノ貨幣 轉住ノ風習衰ヘテ農業漸ク行ハルルニ及ヒテハ農産物ヲ以テ貨幣ト爲セル場合多シトス」

第四 服飾ノ貨幣 身體ヲ裝飾スルハ人類ノ一大慾ナリ而シテ裝飾物ハ久シキニ堪ヘ且普ク人ニ貴重セラレ又容易ニ移轉スヘキヲ以テ又自然貨幣ト爲ルナリ」

第五 製造品ノ貨幣 例ヘバ「セチナルヲ沿岸ニ行ハレタル綿布ノ如キ是ヲ以

第六 金屬ノ貨幣以上列記セルカ如ク貨幣トシテ用セザル財貨其種類少カラスト雖モ最モ廣ク貨幣トシテ用ヒラレタルハ金屬ナリ而シテ金屬中最モ貨幣ニ適スルハ金銀トス其然ル所以ハ後節ニ之ヲ説明ス

第二節 貨幣ノ職務及ヒ此職務ヲ盡スニ必要ナル條件

前節ニ述ヘタルカ如ク貨幣ハ交易ヲ媒介スル爲メニ始メテ現出セルモノナ
ルカ故ニ貨幣第一ノ職務カ交易ノ媒介ヲ爲スニ在ルニ在リ抑モ貨幣ハ數多ノ財貨ト交易セ
ラルルカ故ニ職務ハ價格ノ共同標準タルニ在リ抑モ貨幣ハ數多ノ財貨ト交易セ
ルハ猶ホ分類ノ加減ニ於ケル同分母ノ如ク諸種ノ財貨ノ價格ヲ貨幣ニ對スル
價格ニ換算シテ以テ其比較對照ヲ容易ナラシムルナリ若シ此ノ如ク共同ノ標
準ナク事事物物互ニ比較セハ其繁雜殆ト恐ラ能ハク其例ハハ茲ニ百種
ノ財貨アリ相互ノ交換比例ヲ知ラント欲セハ四千九百五十回比較ノ勞ヲ取ラ

ナルヘカラス然ルニ貨幣ニ依リテ之ヲ對照セハ僅ニ一百回ニシテ足レリ且今
日人人カ損益ノ計算ヲ正確嚴密ニ爲シ得ルハ貨幣ヲ以テ價格ノ共同標準ト爲
セハナリ

貨幣第三ノ職務ハ價格ノ本位タルニ在リ社會漸ク進歩スルニ從ヒ信用取引即
チ貸借ノ慣習起ルニ至ル貸借ハ多クハ同種ノ財貨ヲ以テ償還スルモノニシテ
例ヘハ穀物ヲ借ル者ハ穀物ヲ以テ返済シ利息モ亦穀物ヲ以テ償還スルモノトス而
シテ償還ノ時期ニ當リ其財貨ノ價格下落スルニ於テハ貸者ハ損失ヲ招キ價格
上騰スルニ於テハ借者其害ヲ被ルナリ又數種ノ財貨ヲ借ラントスルニ當リ一
人ニ就テ總テ之ヲ借り得ルコト難シ是ニ於テ世人普ク之ヲ欲望シ且其價格ノ
變動最モ少キ一種ノ財貨ヲ擇ヒテ之ヲ貸借セハ右ニ述ベタル不便ヲ減スルコ
ト大ナリ而シテ此資格ヲ有スルモノハ通常其社會ニ行ハルル貨幣ニシテ貨幣
ハ又價格本位タルノ職務ヲ負フニ至ルナリ即チ貨幣ハ實際貸借ノ目的物ト爲
ルノミナラス縱令他ノ財貨ヲ借ルモ貨幣ヲ以テ之ヲ評價シ其償還ハ貨幣ヲ以
テシ成ハ貨幣ヲ以テ評價スルナリ曩ニ述ヘタルカ如ク價格ハ一種ノ關係ニ外

ナラサルヲ以テ何物ト雖モ他物ニ對シテ一定ノ價格ヲ有スル能ハスト雖モ貨幣ハ交易力ノ最も大ナルモノニシテ世人ノ一般ニ欲望スルモノナレバ價格ノ變動ハ他ノ財貨ニ比シテ必ス少キナリ

右ニ述ヘタルハ貨幣ノ最も重要ナル職務ニシテ第一ハ貨幣ノ原始的職務トモ稱スベキモノナレトモ社會ノ進歩スルニ從ヒ其必要ノ程度ヲ減スルモノトス

第二第三ノ職務ニ至リテハ益其必要ヲ加フルモノニシテ殊ニ第三ノ職務ヲ以テ然リトス

右ニ掲ケタル三種ノ職務ニ次テ屬貨幣ニ附隨シ來ル職務アリ即チ片務取引ヲ支拂ニ供セラルルコト及ヒ價格ノ貯藏ニ用ヒラルルコト是ナリ例ハ贈遺納稅損害賠償過料等ハ多クハ貨幣ヲ用フルナリ又財産ヲ貯蓄セントスルトキ或ハ之ヲ携帶シテ旅行セントスルトキ或ハ之ヲ遠方ニ輸送セントスルカ如キ場合ニ於テハ通常貨幣ヲ用フルヲ以テ最も便利ナリトス何トナレハ貨幣ハ其交易力大ナルカ故ニ今日之ヲ貯ヘテ後日之ヲ出スモ他物ニ交換スルニ甚タ容易ナリ又他所ニ之ヲ持去ルモ容易ニ他物ト交換シ得レバ

財貨カ貨幣ト爲リテ以上述ヘタル職務ヲ盡セントスルトキハ種種ノ條件ヲ具備スルコトヲ要シテ此等ノ條件ヲ具備スルコト最も多キモノヲ以テ最も完全ナル貨幣ト爲ス大ニ其條件ヲ列記スレバ即チ左ノ如シ

第一價格ヲ有スルコト 貨幣ハ他人ノ價格ヲ財貨ト交換スベキモノナレバ故ニ自ら亦價格ヲ有セサルヘカラス前節ニ列舉セル種種ノ貨幣ニ見ルニ一トシテ價格ヲ有セサルモノナク其如キモ亦裝飾物トシテ價格ヲ有シ其他牛畜穀物獸皮等ニ至リテハ各其效用ニ應ジテ價格ヲ有スルヤ明カナリ凡ソ一種ノ財貨ニシテ貨幣ト爲ルトキハ之カ爲メニ其價格ヲ高ムルハ明白ナル事實ニシテ今日金ノ價格大ナルハ貨幣トシテ用ヒラルルコト甚タ多クレバナリ然レトモ金ハ貨幣トシテ用ヒラレサルモ尙キ大ナル價格ヲ有スルモノトス

第二携帶運搬ニ便ナルコト 貨幣ノ有スル價格ハ其容積及ヒ重量ニ比較シテ適當ナル比例ヲ保マコトヲ要ス即チ大ニ失スル者ハ携帶運搬ニ便ナラス又小ニ失スルモノハ紛失ノ憂アリ昔スバルタニ於テ用ヒタル鐵錢ノ如キハ今日ノ經濟社會ニ適セズルコト論ヲ埃タヌ又牛畜穀物ノ如キ皆携帶ニ便ナラサル

ナリ然ルニ金銀ハ此條件ヲ具備スルコト大ナリトス然レドモ小貨幣ト爲スニハ其價格高キニ失スルカ故ニ他ノ金屬ヲ用ヒザルヲ得タルナリ、或ハ今日第三號毀滅セザルニトテ貨幣ハ買賣貸借ノ媒介トシテ人々ノ間ニ轉轉シ又價格ノ貯藏トシテ保存セラシムルモノナルカ故ニ容易ニ毀滅セザルコトヲ要ス而シテ金銀ハ能ク此條件ニ適合スル性質ヲ有スルナリトシテ、
 第四ノ品質ニ精粗大キコト貨幣タルモノハ品質優劣ナクシテ其量同シ然レハ其價格モ亦同シキヲ要ス而シテ金銀ハ其產地ヲ同シウセザルモ一度精鍊ヲ經ル下キハ其品質ニ差異ナキナリ、
 第五ノ分割シ得ヘキコト、茲ニ分割シ得ヘキト謂フハ分割スルモ其價格ヲ増減セザルヲ謂フナリ例ヘハ金剛石ノ如キモ非常ナル方ヲ用フレハ之ヲ碎クコトヲ得ヘシ然レトモ其碎片ノ價格ト全形ノ價格トハ到底比較スルヲ得タルヲ、然ルニ金屬ニ至リテハ一度之ヲ分割スルモ溶解シテ再ヒ舊ニ復スルコトヲ得ルカ故ニ分割ノ爲メニ其價格ヲ減スルコト極メテ少シシ、
 第六ノ認識シ易キコト、認識シ易キトハ容易ニ之ヲ認メテ他ノ諸物ト識別シ

易キヲ謂フ若シ授受ノ際ニ其品質ヲ精査スルコトヲ要セハ其煩殆ト堪ユヘカラス且其善惡ヲ分ツニ多少ノ鑑識ヲ要セハ常ニ欺カル者アルヘキナリ、
 第七 價格ノ變動少キコト、貨幣タル財貨ニシテ價格ノ變動激甚ナルニ於テハ價格ノ本位タルコトヲ得タルナリ而シテ價格ノ一定不動ハ到底之ヲ望ムベカラサルカ故ニ價格ノ變動最モ少キ財貨ヲ擇ビテ貨幣ト爲ササルヘカラサルナリ抑モ價格變動ノ原因ハ或ハ財貨自身ニ存スルコトアリ或ハ財貨ノ外部ニ存スルコトアリ即チ外部ニ起因スル價格ノ變動ハ無數ノ財貨ニ於ケル需要供給ニ非サルナリ來ルモノナルカ故ニ一低一昇靜定スルトキナシト雖モ自己ニ起因スル變動ニ至リテハ其高低ノ程度甚タ緩漫ナルモノアリ而シテ金銀ハ此條件ヲ具備スルコト最モ大ナリトス何トナレハ數十年來探掘セル分量ハ漸次蓄積シテ非常ノ巨額ニ上レルヲ以テ年年ノ產出額ニ増減アルモ金銀總額ノ價格ニ影響ヲ及ホスコト甚タ少ケレハナリ

第三節 貨幣制度

金屬特ニ金銀カ貨幣タルニ最モ適スルコトヲ前節ニ述ベタル如ク然レドモ地金ノ形體ヲ以テ之ヲ通用セシムルトキハ授受ノ際ニ品質ヲ檢シ分量ヲ秤ラサルヘカラサルカ故ニ不便少カラス之ヲ以テ古代既ニ貨幣鑄造ノ術起リテ貨幣ノ輕重品質ヲ一定シテ其流通ヲ容易ナラシメタリキハ自ニ歐國之ヲ東西諸國ノ歴史ニ徵スルニ古來貨幣鑄造ノ權ハ一國若クハ一地方ノ統治者之ヲ掌握セルヲ以テ常例トシ蓋シ私人ニ貨幣ノ製造ヲ許ストキハ種種ノ貨幣現出シテ其品質重量ノ均一又失シ其流通力ヲ減スレハナク又貨幣ノ製造ヲ以テ一ノ財源ト爲シ其發行セル貨幣ニ不當ノ價格ヲ付シテ通用セシメタルコト古來少カラス人民ヲシテ不廉ナル製造手續料ヲ納メシメタル場合亦稀ナラサルナリ而シテ貨幣ノ製造發行ヲ以テ財源ニ充ツルハ今日則チ國家ノ行フヘキコトニ非スト雖モ第一ノ理由ニ依リ貨幣製造及ヒ發行ノ權ハ國家之ヲ有セザルヘカラサルカオリ然ルニ國家ノ職務ヲ能ク限リ狹隘ナラシメシメザル者ハ貨

幣製造ノ事業モ亦私人ノ經營ニ放任スル論スル者アリ例ヘハ「スウェーデン」ノ如キ是ナリ此等ノ論者ハカノ「グロシヤ」ノ法則ヲ忘却セルモノニシテ若キ貨幣製造ノ事業ヲ專シ人民ノ手ニ任セバ租税ノ貨幣ヲ造リ廉價ニ之ヲ賣リ遂ニ至良ノ貨幣ヲ驅逐スルヤ必セリ故ニ貨幣ノ製造發行ハ國家之ヲ司リ所謂貨幣制度ナルモノヲ設ケザルヘカラズ而シテ貨幣制度ノ基礎ハ如何ナル金屬ヲ以テ本位貨幣ト爲スカラ定ムルニ在リトス然レドモ「德國」ハ昔來「自由貿易」抑モ貨幣ヲシテ至大ノ流通力ヲ得セシメテト欲セハ國家ハ之ニ與フルニ強通方ヲ以テセザルヘカラス即チ一種若クハ數種ノ金屬ヲ撰ミテ本位貨幣ヲ造リ金額ノ多少ヲ論セス取引上之カ受納ヲ拒ムコトヲ得ザラシムルヲ要スルナリ例ヘハ現今我國ノ本位貨幣ハ金貨ニシテ貨幣法第七條ニ曰ク「金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用スト」云々「日本貨幣法」ハ「金貨幣」ハ「本位貨幣」ヲ定ムルニ通常二種アリ單本位制兩本位制是ナリ單本位制ハ本位貨幣ヲ一種ノ金屬ニ限ルモノニシテ金ヲ撰ムトキハ金本位ト稱シ銀ヲ撰ムトキハ銀本位ト名ケ兩本位制ニ於テハ通常金銀ノ二金屬ヲ撰ミテ同時ニ本位貨幣

ト爲シ其間ノ比價ハ法律ヲ以テ初ヨリ之ヲ定メ市場ニ於ケル比價變動スルモ
 兩種ノ貨幣ハ常ニ法定ノ比價ヲ以テ通用スルモノトスルニ由リテ其ノ間ニ
 無限ノ強通力ヲ有スル本位貨幣ヲ定ムルトキハ人民ニ與フルニ所謂自由製
 ノ權ヲ以テセサルヘカラス即チ何人ト雖モ本位貨幣タルヘキ地金ヲ造幣局ニ
 輸納スルトキハ無手数料若クハ少額ノ手数料ヲ以テ之ヲ本位貨幣ニ製造スル
 ノ求ニ應セサルヘカラス此ノ如ク人民ニ自由製貨ノ權ヲ與フル所以ハ他ニア
 ラス若シ本位貨幣ノ製造額ヲ全ク政府ノ意思ニノミ任スルトキハ本位貨幣ノ
 數量不足ヲ來シ爲メニ貨幣ノ價格ト地金ノ價格トノ間著シキ差異ヲ生スルコ
 トアレハナリ然レトモ現今金銀兩本位制ヲ採用セル諸國ハ皆銀貨ノ自由製造
 ヲ許ササルモノトス蓋シ銀價ノ下落激シキヲ以テ若シ銀貨ノ自由製造ヲ許ス
 トキハ忽チ銀貨ノ漲溢ヲ來シ金貨ハ全ク其跡ヲ絶ツニ至レハナリ又金本位制
 ヲ採用セル國ニシテ尙ホ本位銀貨ノ流用ヲ許スモノアリ例ニハ獨逸ノ如キ是
 ナリ此ノ如ク金銀兩本位制ニシテ銀貨ノ自由製造ヲ廢止シ金單本位ニシテ本
 位銀貨ヲ有スル者ハ或ハ之ヲ跛行本位制ト稱スルモテテリ而シテ現今歐洲諸

國ノ貨幣制度ハ此名稱ヲ免レサルモノ多シトス然レモ其ノ間ニ於テハ
 金本位制ニ於テハ勿論銀本位制ニ於テモ亦少額ノ取引ノ爲メニ價格ハ少ナル
 貨幣ヲ製造發行スル必要ヲ見ルナリ此貨幣ハ補助貨幣ト稱シ本位貨幣ノ如ク
 完全ナル強通力ヲ有セス支拂ニ供シ得ヘキ額ニ制限アルモノトス例ニハ我國
 ニ於テハ銀ノ補助貨幣ハ十圓マテ白銅及ヒ青銅貨ハ一圓マテヲ限リ法貨トシ
 テ通用スルナリ而シテ補助貨幣ハ其大小宜キヲ得ナルニ於テハ授受、携帶ニ不
 便ナル故ニ廉價ナル金屬ヲ以テ之ヲ製造シ銀ヲ用フルトキハ本位貨幣ニ比シ
 量目ヲ減シ品位ヲ劣等ニシ法定ノ價格ハ初ヨリ市場ノ價格ニ比シテ高キヲ要
 スル故ニ補助貨幣ハ私人ノ求メニ應シテ之ヲ製造スルモノニ非リルナリ
 貨幣制度ハ本位貨幣ノ撰定ニ依リテ其基礎定マルト雖モ貨幣ノ製造發行ニ關
 スル規定ヲ設ケテ始メテ之ヲ實施スルコトヲ得ルナリ其要點ヲ舉クレハ左ノ
 如シ
 第一 本位貨幣タルヘキ金屬ヲ以テ價格ノ單位ヲ定ムルヲ要ス
 例ニハ我國
 幣法第二條ニ曰ク純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス

第二、貨幣ノ品位ト量目トヲ定メサルヘカラス純金銀ハ共ニ柔軟ニ過クルヲ以テ他ノ金屬ヲ加ヘテ適當ノ硬度ヲ得セシムルヲ要ス。例ヘハ我金貨幣ハ純金九百分銅一百分ヨリ成ルモノニシテ此品位ハ諸國ノ採用スル所ナリ品位ノ定マルト共ニ貨幣毎片ノ量目ヲ定メサルヘカラス此二者定マリテ始メテ貨幣ノ毎片相等シキヲ得ルナリ然レトモ實際上毎片ノ品位量目毫モ差異ナキヲ期シ難キカ故ニ品貨量目ニ關スル公差ナルモノヲ規定シ此公差ヲ越ユルモノハ初メヨリ發行セサルモノトス。

第三、流通貨幣ヲシテ法定ノ量目以下ニ至ラサシムルコトヲ要ス。貨幣ヲ始メテ發行スルニ當リテハ公差ヲ超ユルコトナシト雖モ輾轉流通スルトキハ磨損ノ爲メニ多少其量目ヲ減少スルモノトス而シテ其磨損ノ量大ナルトキハ貨幣ノ名稱上ノ價格ト實際ノ價格トノ間ニ著シキ差ヲ生スルヲ以テ本位貨幣ハ其通用最輕量目ヲ定メ其以下ニ下ルモノハ之ヲ除去スル方法ヲ講セサルヘカラス例ヘハ我貨幣法第十一條ニ於テ金貨幣ノ通用最輕量目ヲ定メ而シテ同法第十二條ニ規定シテ曰ク金貨幣ニシテ磨損ノ爲通用最輕量目ヲ下ルモノ...

三云云ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手数料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシトス。

第四、私人カ本位貨幣ノ製造ヲ請求スルニ當リ手数料ヲ徵收スルヤ否ヤヲ定メサルヘカラス若シ多數ノ手数料ヲ徵收スルニ於テハ是レ即チ自由製貨ノ權ヲ害スルモノナルカ故ニ現今ニ於テハ諸國多クハ僅少ナル手数料ヲ徵收シ或ハ全ク手数料ヲ徵收セサルモノトス。

其他貨幣ノ製造ニ關シテ注意スヘキハ貨幣ノ種類貨幣ノ算則貨幣ノ形狀及ビ大小是ナリ即チ貨幣ノ種類ハ多キニ過キヌ又少キニ失セタルヲ要シ貨幣ノ算則ハ通例十進一位ノ法ヲ用フルモノトス又形狀ハ嚴造刻密及ビ自然ノ磨損ヲ防クコトニ注意シ大小ハ共ニ其當ヲ失セサルコトヲ勸ムヘシ。

第四節 貨幣ノ價格

貨幣ノ價格トハ貨幣カ他ノ財貨ニ對スル交換比例ニシテ即チ貨幣ノ購買力ヲ謂フ故ニ貨幣ノ價格ハ一定ノ場所、一定ノ時ニ於テハ一定スト雖モ場所ヲ異ニシ時ヲ同シウモサルニ於テハ差異變動アルヲ免レス同一額ノ貨幣ニシテ其價

格昨日高クシテ今日低ク甲ノ地ニ大ニシテ乙ノ地ニ小ナルコトアルモノト云
 而シテ彼ノ財貨ノ代價ナルモノハ貨幣ヲ以テ其價格ヲ表示セルモノナルカ故
 ニ貨幣ノ價格モ亦財貨ノ代價ニ因リテ之ヲ知ルコトヲ得ルナリ
 今市場ニ於テ財貨ノ代價ノ變動スル所以ヲ見ルニ其原因財貨ニ存スル場合ト
 貨幣ニ存スル場合ト在リトス而シテ第一ノ場合ハ既ニ第二章ニ述ヘシ如ク財
 貨ノ需要供給ノ關係ニ依ルモノニシテ吾人カ毎日目撃スル所謂物價ノ高低ナ
 ルモノハ其原因財貨ニ存スルコト多シトス然レトモ物價ノ變動ニシテ貨幣ニ
 基因スルコトアルハ之ニ理論ヲ照ラスモ亦之ヲ實際ニ徵スルモ爭フヘカラザ
 ル事實ニシテ此原因ヨリ生スル物價ノ變動ハ其勢力通常緩慢ニシテ世人ノ注
 意ヲ引クコト少ク且數多ノ財貨ニ比較シテ始メテ變動ノ程度ヲ概測シ得ルモ
 ノトス本節ニ於テ説明セントスル貨幣ノ價格ハ其變動ノ原因貨幣ニ存スルモ
 ノニ限ルナリ
 貨幣ノ價格モ亦需要供給ノ關係ニ依リテ定マルモノトス例ヘハ今日ノ貨幣ノ
 價格ハ今日以前ニ於ケル貨幣ノ需要額ト其流通額トノ關係ヨリ生セルモノニ

シテ明日ニ至リ貨幣ノ需要額ニ増加シ而シテ流通額ノ増加之ニ伴ハサルトキ
 ハ貨幣ノ價格ハ次第二ニ上騰スヘク之ニ反シテ流通額増加スルモ需要額ノ増加
 之ニ應セサルトキハ貨幣ノ價格ハ低落ヲ來スモノトス
 一國ニ於ケル貨幣ノ需要額ハ到底之ヲ精細ニ計算スルコト能ハス經濟上及ヒ
 其他ノ狀況ニ依リテ各國貨幣ノ需要額ヲ異ニスルノミナラス同一國ニ於テモ
 常ニ多少ノ變動ナキヲ得サルナリ然レトモ一國ニ於ケル貨幣需要額ノ大小増
 減ハ左ニ述フルカ如キ原因ニ依リテ影響セララルルモノトス
 第一 人口ノ多少面積ノ大小 他ノ狀況同一ナリトセハ人口ノ多キ國ハ其少
 キ國ヨリモ貨幣ヲ要スルコト多ク面積ノ大ナル國ト其小ナル國トヲ比較スル
 モ亦然リトス
 第二 貨幣ヲ使用スル取引ノ多少 貨幣ヲ使用スル取引ノ多少ハ開化進歩シ
 分業行ハルルニ隨ヒテ増加スルモノトス例ヘハ奴隸制度廢セラレテ自由勞働
 之ニ代リ自產自費ノ風習衰ヘテ他人ノ生産セル財貨ヲ消費スル程度昇進スル
 トキハ貨幣ヲ要スルコト多キヲ致ササルヲ得ス故ニ未開國ト開化國トヲ比較

セハ後者ノ貨幣需要額ハ前者ヨリモ大ニシテ地方ト都會トヲ比スルモ亦同一ノ現象ヲ見ルモノトス然レトモ一國ノ經濟事情益々進歩シテ所謂信用制度ナルモノ發達スルトキハ貨幣ノ需要額ハ比較的ニ増加セズ何トカレハ取引ノ多數ハ貨幣ノ授受ヲ要セスシテ行ハルルヲ以テナリ例ヘハ甲乙丙丁同一ノ銀行ト取引ヲ有スルニ於テ其間ノ貸借ハ銀行ノ帳簿上ニ於テ之ヲ決算シ毫モ貨幣ノ媒介ヲ要セサルモノナリ又手形交換所ナルモノヲ見ルニ巨額ノ取引ハ此機關ニ依リ相殺ノ方法ヲ以テ結了セラル其他手形小切手保證準備ヲ以テ發行セル銀行券等ハ皆取引ノ支拂ニ用ヒラレ貨幣需ノ要額ヲ減スルコト大ナリトス試ニ英佛ヲ比較スルニ人口殆ト相等シク商業ノ發達ハ英國遙ニ佛國ヲ凌駕スルニモ拘ハラズ英國ニ存在スル貨幣ノ總額ハ佛國ニ於ケル貨幣存在額ノ半ニモ滿タスト云フ而シテ其然ル所以ハ主トシテ英國ニ於ケル信用制度ノ發達ニ歸セサルヘカラサルナリ

第三 貨幣流通ノ遲速ニ永ク一箇所ニ停滯スルコトナク輾轉シテ支拂ニ用ヒラルルヲ稱シテ貨幣ノ流通速ナリト謂フ速力大ナレハ小船ト雖モ屢々往復シテ

多量ノ貨物ヲ運搬シ得ルカ如ク貨幣モ其流通速ナレハ小額ト雖モ數多ノ取引ヲ爲シ得ルナリ而シテ都府ト地方トヲ比較シ人口ノ稠密ナル國ト稀薄ナル國トヲ對照スレハ貨幣ノ流通ハ前者ニ於テ急速ナルヲ見ルモノニシテ運搬機關ノ進歩ハ貨幣流通ノ速力ヲ増加スルモノトス又貨幣ヲ自家ニ保管セス之ヲ銀行等ニ預入ルル風習盛ナルトキハ貨幣ノ流通ヲ急速ナラシムルモノトス

次ニ貨幣ノ流通額ニ増減ヲ來ス原因ヲ見ルニ

第一 貨幣ノ原料タル貴金屬ノ產出額ハ各國ノ貨幣流通額ニ影響ヲ及ボスモノニシテ金銀ノ產出多ケレハ貨幣ノ流通額増加スルモノトス然レトモ一箇年ニ於ケル金銀ノ產出額ハ古來著積セル世界ノ金銀存在額ニ比シ甚タ少ナリトス而シテ年年產出スル金銀ハ悉ク貨幣ト爲ルモノニ非ス又貨幣磨損ノ爲メニ既存ノ金銀多少減少スルカ故ニ常ニ之ヲ補充ヲ要スルナリ之ヲ以テ年年ノ產出額ニ依リテ世界ニ於ケル貨幣ノ増加スル速力ハ緩慢ナリトス

第二 貴金屬ハ裝飾工藝ノ目的ニ使用セララルコト少カラス既存ノ貨幣ヲ銷解シテ此用ニ供スレハ貨幣ノ流通額ヲ減シ直チニ埋金ヲ用フルトキハ貨幣流

通額ノ増加ヲ妨クル所以ナリ次ニ金銀ノ貯藏モ亦然リトス即チ印度支那等ニ於テハ財貨トシテ金銀ヲ秘藏スル風習盛ニ行ハレ之カ爲メニ貴金屬ノ二國ニ吸收セラレルノ額少カラストス又文明國ニ於テモ戰爭革命又ハ恐慌ノ起リタルトキハ貨幣ヲ貯藏スル者少カラス是レ即チ直接ニ貨幣ノ流通額ヲ減スルモノト謂フヘキナリ

第三 一國ニ於ケル貨幣流通額ノ増減ニ至大ノ影響ヲ及ホスモノハ國際貸借ノ關係ナリトス國際ノ貸借ハ財貨ノ輸出入ヲ始メトシテ債券株式等ノ賣買外債ノ募集償却及ヒ利息ノ支拂資本ノ放下運賃利潤ノ受拂等ノ原因ニ基クモノニシテ多クハ爲替作用ヲ以テ支拂ヲ爲スト雖モ之カ爲メニ金銀ノ出入ヲ生スル場合少カラス故ニ右等ノ原因ニ依リ貴金屬輸入セラルルトキハ貨幣ノ流通額ヲ増加シ之ニ反シテ貴金屬流出スルトキハ貨幣ノ流通額減少スル結果ヲ生スルモノトス

以上列舉セルカ如キ原因ニ因リ貨幣ノ需要額及ヒ流通額ハ増減伸縮スルモノニシテ二者ノ比例變更スルコトナクハ貨幣ノ價格ハ變動スルコトナレト雖

モ需要額比較的增加スレハ貨幣ノ價格ハ上騰シ比較的減スレハ貨幣ノ價格ハ低落ヲ來スヘキモノトス貨幣價格ノ高低ハ他ノ財貨ノ代價之ヲ表示スルモノニシテ貨幣ノ價格ニ變動ヲ生スレハ他ノ財貨ノ代價ハ反比例ヲ以テ上下スヘキナリ然レトモ貨幣ノ需要額ト流通額トノ關係變更スルニ當リ其影響ハ直チニ全國ニ波及シ且同一ノ程度ヲ以テ各種ノ財貨ノ代價ヲ變動スルモノニ非ス其影響ハ先ツ一國經濟界ノ一部ニ起リ漸次ニ他ノ方面ニ及フモノトス例ヘハ從來專ラ金融市場ニ於テ貸付資本ニ用ヒラレタル貨幣ノ多額外債ノ募集ニ應シ外國ニ流出セルカ如キ場合ヲ見ルニ貸付資本ノ減少ニ因リ先ツ金利ノ騰貴ヲ來シ爲メニ借入資本ニ依頼スル製造家ハ生産費ノ増加ニ苦ミ又借入資本ヲ以テ營業スル商人ハ其購買力ヲ減ス是ヲ以テ製造家ハ速ニ製造品ヲ賣却センコトヲ欲シ商人ハ買入ヲ減スルノ傾向ヲ生シ其結果トシテ製造品ノ代價ハ下落スルニ至ラン是レ固ヨリ一例ニ過キスト雖モ貨幣ニ存在スル原因ノ爲メニ物價ニ變動ヲ生スルハ幾多ノ時日ヲ要スルモノニシテ且其影響ノ程度ハ諸種ノ財貨ニ對シテ同一ナラザルナリ故ニ一ノ原因未タ結果ヲ現ハサザルニ當リ

反對ノ原因生シテ相抑制スルコトアルナリ例ハ右ニ掲ケタル例ニ於テ貨幣
 二度外國ニ流出スルモ幾ナラズシテ償金ノ收容ニ因リ巨額ノ貨幣輸入セラル
 ルニ於テハ貨幣流出ノ影響ハ之カ爲メニ其勢力ヲ失フヘキナリ故ニ
 貨幣ノ價格ハ之カ原料タル貴金屬ノ生産費ニ因リテ定マルモノナリト爲スモ
 ノアレトモ是レ膠見タルヲ免レス生産費カ直接ノ關係ヲ有スルハ貨幣ノ流通
 額ナリトス而シテ流通額ニ増減ヲ來ストキハ間接ニ多少貨幣ノ價格ヲ變動ス
 ル所以ナリト雖モ幾ニ述ハタルカ如ク金銀年年ノ産出額ハ古來ノ存在額ニ比
 シ甚ク少ナルモノニシテ総合産出額ノ一部ハ生産額少ナリトスルモ其産出無
 限ニ増加スルコト能ハス又一金額ニ於テ生産費増加スルモ金ヲ價格ヲ騰貴モ
 シテ其生産費ヲ償フニ至ラシムル能ハサルナリ例ハ我國ニ於テハ金一匆
 ノ生産費五圓ニ達スルマテハ收支相償フト雖モ五圓以上ニ至ルトキハ損失ヲ
 來スマ以テ金ノ生産ハ中止セラレ金ノ貨幣ト爲ルコト減少スヘシ之ニ反シテ
 生産費減少スルトキハ金ノ生産増加シテ其貨幣ト爲ルコト亦多カルヘキナリ
 此ノ如ク金ノ生産費ハ金貨ノ流通額ニ多少増減ヲ來ストキ力ナリト雖モ貨幣

ノ價格ニ對シテハ直接ニ影響スル所ナク金地金ノ生産費如何ニ増加スルモ其
 價格ハ貨幣法ニ定ムル價格單位標準ヲ制限トシ又生産費減少スルモ價格單位
 ノ標準以下ニ下ルモノニ非ス何トナレハ自由製貨ノ權ヲ以テ何時モ之ヲ
 貨幣ニ製造スルコトヲ得レハナリ若干ノ差異アリトスレハ造貨手數料之ヲ
 徴收スル國ニ於テハ運賃保險料製造中ニ損失スル利子等ニ過キサルナリ
 終ニ貨幣價格ノ増減カ社會ニ及ホス影響ニ付テ一言セント欲ス貨幣ノ重要ナ
 ル職務ハ價格ノ本位タルニ在ルヲ以テ價格ノ變動最モ少キヲ要スト雖モ多少
 ノ變動ハ到底免レザル所ナリトス而シテ貨幣價格ノ低昂ハ先ツ物價ノ騰貴ニ
 現ハレ爲メニ生産ヲ獎勵シ資本ノ増殖資銀ノ上進ヲ來シテ消費ノ増大ヲ促
 スモノトス又債務ノ負擔ヲ軽減シ之カ返償ヲ容易ナラシムルヲ以テ取引自ラ
 活潑ト爲ルナリ然レトモ債權者及ヒ確定セル貨幣收入ヲ有スル者ハ損失ヲ被
 リ労働者ノ如キモ貨幣ノ上進物價ノ騰貴ニ伴ハザルトキハ即チ被害者ノ地位
 ニ立ツモノトス之ニ反シテ貨幣ノ價格上騰スルトキハ前述ニ反對ノ結果ヲ來
 スモノナリ若シ貨幣價格ヲ變動ニシテ急激ナルトキハ貸借者ハ不當ノ利害ヲ

受クルコト甚シク價格下落ノ場合ニハ投機ヲ獎勵シテ經濟界ノ基礎ヲ破壞シ價格上騰ノ場合ハ甚シク產業ヲ萎靡セシムルモノトス然レトモ貨幣流通額次第ニ増加シ若クハ信用制度發達シテ貨幣ノ需要額漸次ニ減少シ以テ貨幣ノ價格徐徐ニ低落スルハ寧ろ喜フヘキ現象ナリト爲ス者アリ「デジゴンス」曰ク金價ノ下落ハ既ニ獲得セル富ヲ享有セル者ヲ損シ現在富ヲ作りツツアル者ヲ利シ爾テ社會ノ活潑ナル者熟練ナル者ヲシテ益々勉勵セシム下ニ

第五節 「グレンシャム」ノ法則

「グレンシャム」ノ法則トハ貨幣ノ流通ニ關スル一ノ重要ナル法則ニシテ惡貨幣ハ良貨幣ヲ排去シ良貨幣ハ却テ惡貨幣ヲ排去シ得ナルヲ謂フナリ「グレンシャム」ハ「エリザベス」時代ノ英國人ニシテ右ニ述ヘタル貨幣流通ノ法則ヲ知り以テ當時ノ幣制改革ヲ成效セシメタルカ故ニ後世此法則ニ冠スルニ氏ノ名ヲ以テセルナリ

此法則ハ一見頗ル條理ニ反スルカ如シ然レトモ貨幣カ他ノ財貨ト異ナルノ點

アルヲ知ラハ此法則ノ行ハルルハ毫モ怪シムニ足ラサルナリ即チ貨幣ハ他ノ財貨ノ如ク直接ニ之ヲ使用若クハ消費スルモノニ非ヌ主トシテ支拂ノ用ニ供スルモノナルカ故ニ外形ノ相同シキトキハ世人ハ精密ニ其品位重量ヲ検査セシテ授受スルモノナリ然レトモ地金商兩替商金細工師等ニ至リテハ細ニ其差異ヲ探究シ重量品位ノ同シカラサル貨幣ニシテ同一ノ法定價格ヲ以テ通用スルトキハ品位重量ノ勝レルモノヲ選擇蒐集シテ或ハ之ヲ鎔解シ或ハ之ヲ輸出スルカ故ニ良貨幣ハ遂ニ其跡ヲ收メ惡貨幣ノミ流通スルニ至ルナリ

諸國貨幣制度ノ歴史ヲ見ルニ此法則ノ行ハレタル證據枚舉ニ遑アララス其一例ヲ舉クレハ第十七世紀ノ末ニ當リ英國ニ於テハ流通貨幣ノ磨損甚シク取引上不便少カラザリシヲ以テ政府ハ量目ノ十分ナル新貨幣ヲ發行シ租稅等ヲ納ムルニ當リ政府ハ同一ノ價格ヲ以テ新舊貨幣ヲ受領スルコトト爲セリ之ヲ以テ新貨幣ハ發行セラルルヤ否ヤ忽チ其跡ヲ收メテ行ク所ヲ知ラス是ヲ以テ新貨幣ヲ剽竊スル者ハ死刑ヲ以テ之ヲ罰セリト雖モ之ヲ制止スル能ハス遂ニ磨損セル舊貨幣ハ實際ノ量目ニ據リテ其價格ヲ定ムルニ至リ始メテ此弊風ヲ杜絶

スルコトヲ得タリト云フ又我明治政府ハ開港場ニ洋銀ノ流通スルヲ見テ之ヲ驅逐セント欲シ明治八年洋銀ニ比シテ量目ノ少シク大ナル貿易銀ヲ製造シテ之ヲ發行セリ然ルニ此貿易銀ハ忽チ支那兩替商ノ爲メニ鑄解モラレ政府ハ遂ニ其目的ヲ達スルコトヲ得サリシナリ

同時ニ異種ノ貨幣流通スル場合ニモ亦グレシヤムノ法則ノ行ハルヲ見ルナリ例ヘハ金銀兩本位制ノ國ニ於テ金銀ノ法定比價ハ金一銀十五ナルニ市場比價ハ金一銀十六ト爲ランカ銀塊ヲ有スル者ハ之ヲ造幣局ニ輸納シテ銀貨ト爲シ此銀貨ヲ以テ金貨ニ交換スヘシ何トナレハ市場ニ於テ地金トシテ賣拂フトキハ銀十六匁ヲ以テ金一匁ヲ得ル割合ナレトモ銀貨ニ製造シテ之ヲ金貨ニ交換スルトキハ銀十五匁ヲ以テ金一匁ヲ得ル割合ナレトナリ右ノ如ク金價上騰セル場合ニ金貨ノ所有者ハ法定ノ比價ヲ以テ之ヲ銀貨ニ交換スルモノナキ理ナルモ實際上金銀比價ノ變動ヲ常ニ注意觀察スル者ハ兩替商地金商銀行業者等ニ過キス世人ハ差別ナク金銀貨ヲ授受スル者多キカ故ニ市場ノ比價少シク變動スルモ金銀貨幣ノ交換ハ法定比價ヲ以テ行ハルナリ故ニ此機會ニ乘

比價ノ變動ヲ知ル者ハ銀塊ヲ銀貨ニ製造シテ而シテ金貨ハ或ハ溶解セラレ或ハ輸出セラルルナリ此實例ヲ示スモノハ佛國ノ貨幣史ナリトス即チ千八百三年以來佛國ニ於ケル金銀ノ法定比價ハ金一銀十五半ナリシニ千八百二十年其跡ヲ藏メテ流通セス千八百五十年頃ニ於テハ流通貨幣ハ主トシテ銀貨ナリシト云フ然ルニ千八百五十年以後金價下落セルヲ以テ全ク反對ノ現象ヲ生シ銀貨ハ外國ニ去リテ金塊繼續輸入セラレ金貨大ニ流通スルニ至レリ左ノ統計表ハ以テ當時ノ狀況ヲ示スニ足ルナリ

千八百二十五年ヨリ	金貨製造額	二億六千八百萬法郎
千八百四十八年ニ至ル	銀貨製造額	二十三億八千五百萬法郎
千八百五十五年ヨリ	金貨製造額	五十八億七百萬法郎
千八百六十七年ニ至ル	銀貨製造額	三億八千三百萬法郎

我國カ安政六年歐米諸國ト通商貿易ヲ開キタルニ當リ巨額ノ金貨カ海外ニ流出セルモ亦グレシヤムノ法則ノ行ハレタルニ外ナラス抑モ德川政府ハ屢貨幣

改鑄ヲ行ヒ之ヲ行フ毎ニ多クハ金銀ノ法定比價ヲ變シ天保年度以後ニ於テハ金銀ノ比價ハ大凡金一銀五ノ割合ト爲レリ然ルニ當時倫敦ニ於ケル金銀ノ比價ハ金一銀十五半ナリシヲ以テ懸隔ノ大ナルヤ知ルヘキナリ而シテ諸國トノ條約ニ依リ開港後一年間ハ外國人ノ請求ニ應シ外國ノ金銀貨幣ニ對シ同量ナル我金銀貨幣ヲ引換アルノ義務ヲ負ヘルヲ以テ外國人ハ續續銀貨ヲ輸入シテ之ヲ一分銀ニ引換ヘ此一分銀ヲ以テ我國ノ金貨即チ小判ヲ買入レ盛ニ之ヲ輸出シ其額小判一百萬枚餘ニ上レリト云フ而シテ同年十一月ニ至リ貨幣引換ノ義務廢セラレタルヲ以テ金貨ノ輸出モ停止スルヲ得タリニ至リテ又紙幣發行額ニ增加其當ヲ失スルトキハ貨幣ハ流通セサルニ至ルモノトス是レ亦「グレシヤム」ノ法則ノ行ハルルカ爲メナリ以上述フルカ如ク惡貨幣ハ良貨幣ヲ排去スルヲ以テ通則ト爲スト雖モ惡貨ノ流通額ニ制限アルトキハ「グレシヤム」ノ法則ハ行ハレサルナリ何トナレハ其流通額ノミヲ以テ貨幣ノ需用額ヲ充タスコト能ハナレハナリ例ヘハ補助貨幣ハ本位貨幣ニ對シテ惡貨幣ナリトス然レトモ之カ自由製造ヲ許サズシテ其流通

雜 報

○保證契約ノ成立 主タル債務カ將來ニ生スヘキコトヲ豫期シテ其債務ヲ保證スルノ契約ハ有效ナリヤ大審院ハ說明シテ曰ク保證債務ハ主タル債務存在スルニ非サレハ發生セサルコト勿論ナレトモ主タル債務將來ニ發生スヘキコトヲ豫期シ其未來ノ債權者ニ對シテ第三者カ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ保證契約ノ成立スヘキヤ疑ナシ何トナレハ此ノ如キ契約ハ公ノ秩序若クハ善良ノ風俗ニ反セサルノミナラス契約ノ無効タルヘキ他ノ原因モ亦存セサルヲ以テ縱令契約ノ成立ト同時ニ保證債務發生セサルモ契約ノ效力生セサル理アルヘカラサレハナリト(大審院明治三十五年八月二十五日第五百七十四號 預金及利子附 民事部判決)

○後見人ノ辭任ト就任 禁治產者及ヒ未成年者親權者ナキカ又ハ親權者カ管理權ヲ有セサル場合ニハ其法定代理人タル後見人アルヲ常トス蓋シ此等ノ無能力者ハ私權ノ享有アルモ而モ行使能力ヲ有セサルヲ原則トスルカ故ニ法定代理人ヲ附シテ其利益ヲ全クスルコトヲ得セシムルモノナリ然レトモ人事ノ

複雜ナル終始間斷ナク此法定代理人ヲシテ其利益ヲ管理セシムルコトハ事實
 上到底能ハサル所ナリ例ヘハ法定代理人ノ死亡ノ場合ノ如シ然ラハ後見人ノ
 辭任ノ場合ハ如何此點ニ關シ大審院ハ東京控訴院カ一通ノ書面ヲ以テ交迭届
 ヲ提出シタル場合ニ於テ辭任者ノ就任アルニ非ザレハ前任者ハ辭任スルコト
 ヲ得サルモノト認メタル判決ヲ破毀シテ曰ク民法第九百五條ハ同條ニ列舉シ
 タル事實ニ因リ欠缺シタル場合ニ於テ更ニ後見人ヲ選任スル手續ヲ規定シタ
 ルモノニシテ後任ノ後見人ヲ選任シタル上ニアラサレハ前任ノ後見人其任務
 ヲ辭スルヲ得サルノ法意ニアラサルコトハ同條ノ末條ニ遲滯ナク親族會ヲ招
 集シ云トアルヲ以テ明瞭ナリ即同法條ハ後見人交迭ノ手續ヲ規定シタルモ
 ノト解釋スルヲ得第九百四條モ亦然リ後見人ハ正當ノ事由アルトキハ民法
 第九百七條第五號ノ規定ニ依リ第九百五條ノ手續ヲ爲ササル以前ト雖モ其任
 務ヲ辭スルコトヲ得ルモノナレハ後見人カ其任務ヲ辭シタルヤ否ヤノ爭點ヲ
 判斷スルニ當テハ固ヨリ第九百五條第九百四條ノ手續ヲ爲シタルヤ否ヤニ依
 テ之ヲ斷定スルヲ得ヌ必ス他ニ其辭任ノ有效ナルヤ否ヤヲ決スヘキ相當ノ理

由ナカルヘカラ^スト(大審院明治三十五年(才)第三百九十一號地所所有權登記法)
 本件ハ前審判決後見人交迭届ヲ一通ノ書面ニ認メテ提出シタルニ其後任者ノ
 就任ノ無効ナル事實ニ據リ前任者ノ辭任モ亦效力ヲ生セスト爲シタルモノニ
 シテ一見當レルカ如シト雖モ後見人交迭ノ場合ニ於テ斯ル形式ヲ要スルノ規
 定ナキ以上ハ辭任ト就任ハ別箇ニ觀察スルヲ至當トスヘキナリ
 ○請負ノ目的物ノ滅失ニ因ル危險負擔ニ請負ハ民法第六百三十二條ニ規定
 ヘル如ク仕事ノ結果ニ對シテ報酬ヲ與フルノ契約ニシテ且其報酬ハ仕事ノ目
 的物ノ引渡引渡ヲ要スル場合ト同時ニ之ヲ與フヘキモノナルコトハ第六百三
 十三條ニ規定セル所ナリ故ニ注文者ハ其目的物ノ引渡ヲ受ケサル間ハ固ヨリ
 報酬ヲ與フルコトヲ要セス隨テ其間ニ仕事ノ目的物カ不可抗力ニ因リ滅失シ
 タル場合ニ於テハ其損失ハ請負人ノ負擔モサルヘカラス(民法第五三四條第
 四〇一條第二項第五三六條參照)是レ大審院ノ判例ニ於テ認ムル所ナリ其人ノ
 判決理由ニ曰ク被告上告人カ上告人ノ爲メ請負ヒタル建築物ハ竣工前即チ上告
 所有ト爲ラサル前ニ於テ天災ニ罹リ破壞シタル事實ハ原審ニ於テ確定シタル



如クナルヲ以テ之ニ因リ右建築物ニ付キ生シタル損害ハ當時ノ所有者タル被
 上告人ノ負擔ニ歸スヘキコトハ危險ノ負擔ニ關スル法則上誠ニ明白ナリト云
 フヘシト(大審院明治三十五年(才)第四百六十五號判例(返還請求) 其ノ其人)
 ○一定ノ申立(一)訴ノ提起ニハ訴狀ヲ要シ訴狀ニハ一定ノ申立ノ記載アルコ
 トヲ要スルコトハ民事訴訟法第九十條ニ據リテ明カナリ所謂一定ノ申立ニ
 付テ世人或ハ嚴格ナル方式若クハ用語ヲ以テ記載セザルヘカラサルモノノ如
 シ思惟スル者アリト雖モ法律上別ニ記載ノ箇所方式ヲ存スルコトナシ故ニ起
 訴者カ如何ナル判決ヲ求ムルカカ書面上明確ナレハ以テ足レリトセザルヘカ
 ラシ今大審院ノ與ヘタル説明ヲ見ルニ曰ク一定ノ申立ハ請求事項ヲ書面ニ基
 據明確ニ申立ルヲ以テ足レリトスルモノニシテ其表示ニ要式アルニアラス而
 シテ訴狀ニハ民事訴訟法第九十條第二項ノ規定ニ依リ請求ノ一定ノ目的物
 ヲ詳細表示シアルヲ以テ訴狀目的ノ部ニ記載シアル初筆以下九筆ノ山林ニ對
 シ入會權ノ確證ヲ求ムル旨ノ本件一定ノ申立ハ尙ニ明確ナレム云云(大審院三
 十五年(才)第四百六十六號山林原野入會權確證(請求) 二月十五日第一號民事訴訟法部
 事件明治三十五年十二月八日第三民事部判決) 百六十一號民事訴訟法部判決(三)

高等科校外生募集廣告

高等科講義錄第三號目次 (二月十二日發行)

- 天泉ニ付テノ推問其他憲法典ニ就テノ質疑應答..... 法學士 副島義一
- 隔地者間ニ於ケル意思表示ニ關スル推問..... 法學博士 梅 謙次郎
- 私法ニ關スル學說ノ評論 我民法ト獨逸民法トノ編纂上ノ差異..... 法學士 鈴木英太郎
- 民法ト民事訴訟法トノ關係ニ付テノ講演..... 法學士 鈴木英太郎
- 商業登記及ヒ商號ニ付テノ講演並ニ推問..... 法學士 松本 丞治
- 營業ノ讓渡及ヒ商業帳簿ニ付テノ推問..... 法學士 松本 丞治
- 謀故殺罪ニ付テノ講演..... 法學博士 岡田朝太郎
- 脅迫罪及ヒ其他ニ付テノ推問..... 法學博士 岡田朝太郎
- 法治國ニ付テノ講演..... 法學士 岡田朝太郎
- 證據ニ關スル質疑應答並ニ推問及ヒ豫審ニ關スル講演..... 法學士 豐島直通
- 存廢ノ資格ニ關スル講演..... 法學士 秋山雅之介
- 羅馬法(百二頁至二八頁)..... 法學博士 田 中 通

報 ○最近判例要旨彙報

◎高等科講義錄 每月二回發行月謝金四十錢
 ◎入學志望者ハ此際至急申込マルヲ可トス
 三十六年十一月

和佛法律學校

法學志林

每月一週十五日發行
校友、生徒、校外生三限、
一冊特價銀共金九錢、
十冊前金銀共金八十錢

第四十號

(二月十五日發行)

志林

○最近判例批評其六 法律博士 梅 謙次郎
○法律行為ノ原因(續) 法律博士 岡然泰太郎

纂論

○時勢ト經濟學 法律博士 金井 延
○取引所(續) 海山 獵夫

寄書

○清國司法制度改革私議 友 小林里平

批評

○疑義一東 校 友 一柳 貞吉
○註員以外ノ合名會社業務執行員ト會社區ノ規定 法律博士 岡野敬次郎

解疑

○債權ノ擔當權、保證附債權ノ擔保力ト交互計算、 法律士 志田友吉
○妻カ夫ノ許可ヲ得スシテ爲シタル行為ト民法第百二十二條 法律士 塚田達二郎
○鐵道及レ郵便ノ行政上ノ性質 法律士 清水 澄
○明日ヲ對ニシテ官職ヲ爲シタル場合ニ於ケル職 法律士 秋山雅之介
○一般債權ノ讓渡カ地上權者ノ地位ニ及ホス影響 法律士 中山成太郎

其他

判例、雜報、記事 數十件

發行所 和佛法律學校

(明治二十二年十二月九日內務省許可)

(明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可 每月二十三日五日六日八日十日十一日十二日
十三日十五日十六日十八日二十日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行)

明治三十六年二月二十日印刷
明治三十六年二月廿一日發行

(定價金貳拾五錢)

編輯兼 發行所 東京市牛込區牛込北町十番地 萩 原 敬 之

印刷者 東京市牛込區矢來町三番地 小 宮 山 信 好

印刷所 東京市芝區西ノ久保町十一番地 金 子 活 版 所

發行所 司法省 東京市麹町區富士見町六丁目十六番地 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)